

次ニバラチフス尿診断ニ關スル二三例ヲ加フベシ。

バラB尿(發病五日)	B	バラチホイチン	陽性
バラB尿(發病八日)	B	バラチホイチン	陽性
バラB尿(發病八日)	B	バラチホイチン	陽性
バラB尿(發病八日)	チホイチン	チホイチン	陰性
バラA尿(發病不明)	チホイチン	チホイチン	陰性
バラA尿(發病不明)	B	バラチホイチン	陰性
バラA尿(發病不明)	A	バラチホイチン	陽性

是レヲ以テB型バラチフス患者尿ハ凡テBバラチホイチンヲ分解スルノミニシテ又タA型バラチフス患者尿ハ單ニAバラチホイチンヲ分解スルノミナルヲ知ル。

但シ右患者ノ中發病五日ノモノハ、後ニ至リウキダール反應陽性ヲ呈スルニ至レリ。

以上ノ結果ニ徴シテ、吾人ハ明カニ左ノ確證ニ到達セリ、即チ

一、チホイチン Typhoidin ニヨリテ腸室扶斯患者ヲ其ノ尿ニヨリテ診断

スルコトヲ得。

一、Bバラチホイチン B-Paratyphoidin ニヨリテB型バラチフス患者ヲ其

ノ尿ニヨリテ診断スルコトヲ得。

一、Aバラチホイチン A-Paratyphoidin ニヨリテA型バラチフス患者ヲ其

ノ尿ニヨリテ診断スルコトヲ得。

診断注意

診断上注意事項ノ二三點ヲ舉ゲン。

- 第一 本反應ハ極メテ早期ヨリ出現ス。
- 第二 室扶斯及バラチフス患者ハ治療後ト雖モ、換言スレバ身體全ク無菌ノ状態ニナリシ後ト雖モ、二十四日間ハ其ノ尿中ニ破壊酵素ヲ出現セシムルヲ以テ、尙ホ陽性反應ヲ呈スベシ。
- 第三 室扶斯帶菌者 Typhusträger ノ尿ハ常ニチホイチン陽性ヲ呈ス。
- 第四 室扶ストバラチフスト合併スル場合ニハ各々陽性ヲ呈ス。
- 第五 濾過法ヲ用ヒテ所謂三本試験ヲ行ヒ七、八、九ノ三時間ニ亘リテ檢色スレバ初學者ニハ安心ナリ。



第六 檢尿ノ新舊ヲ問ハズ。

第七 一旦窒扶斯若シクハバラチフスト決定シタル尿ヲ保存セントスル時ハ、之レヲ攝氏六〇度以上ニテ十分間以上加熱シテ貯フベシ。

蓋シ窒扶斯菌及バラチフス菌ハ、攝氏六〇度ニテ十分間加熱スレバ死滅スルコトコレノ證スルガ如クナルヲ以テ、吾人ハ危險ナク全ク安心シテ永ク之レヲ試驗ニ供シ得レバナリ。

第八 檢尿ニハ決シテ殺菌液ヲ混ズベカラズ。

蓋シ昇汞及石炭酸等殺菌液ハ、彼ノ固定液ト同意味ヲ有スルモノニシテ、即チ固定液ガ細胞ノ固定用トシテ使用セラ、ル如ク、殺菌液ハ細菌ノ固定用ニ役立つモノニシテ、其ノ生物學的意味ハ同様ニ菌體ノ破壊酵素ヲ死滅セシメ、若シクハ不働性タラシムルモノタリ、故ニ今吾人ガ檢尿中ニ昇汞、石炭酸若シクハホルマリソ夫々〇・一%及〇・五%及五%以上ノ割合ニテ入ル、時ハ、尿中ノ細菌自身ヲ滅ボスニハ妙ナレドモ、折角必要ナル尿中ニ游離シテ存スル破壊酵素ヲモ滅亡セシムルニ至リ、診斷上正反對ノ結果ニ到達スルノ恐アレバナリ。

診斷雜俎

原田四郎氏ハ濾過法ニヨリテ窒扶斯尿診斷ヲ試ミ、大正四年十一月五日大阪醫科大學ニ開催セル日本微生物學會ニ於テ其ノ一部ヲ報告セリ。同氏ノ自抄ニ徴スレバ、

對照三例皆陰性、一週ヨリ五週ニ渉ル窒扶斯患者尿及ビ發泡液七例ハ、常ニ陽性反應ヲ見ル、尙ホ將來數十例ノ實驗ヲ重ネ、是レニシテ以上ノ成績ヲ見レバ、細菌學ノ診斷的方面ハ革命ナラント考フ。尙ホ氏ガ實驗ヲ委シク表示スレバ、

對照

一、健康男子尿

一、チホイチン〇・〇五瓦八時間浸出液

一、バラチフスB尿

本試驗

一、橋〇(發病七日)

一、尾〇(發病二週)

陰性  
陰性  
陰性  
陽性  
陽性  
陽性



一、横〇(發病三週)

陽性

一、桑〇(發病四週)

陽性

一、蘆〇(發病五週)

陽性

但シ是レ等窒扶斯患者ハ總テ檢便或ハ檢血ヲ經タルモノノミナリト、又氏ハ酵素學的ニ窒扶斯血清診斷ヲ試ミ、余ガ濾過法及ビ新透析法ヲ用ヒ左ノ結果ヲ得タリ。

一、窒扶斯患者發泡液

陽性

一、窒扶斯患者發泡液

陽性

早期限界

余ハ窒扶斯及バラチフス尿診斷ニ於テ、其ノ早期可能ノ限界ヲ定メントシテ動物試驗ヲ行ヘリ。

即チ家兎ノ耳殼靜脈ヨリ培養中ノ窒扶斯生菌、エムルジオンヲ注射シ、十四時間ノ後其ノ尿ヲ採集シテ檢セルニ、チホイチン陽性ナリキ、是レニ由リテ見レバ、人類ニ於テ晚クモ窒扶斯感染後二十四時間ニハ、必ズヤ是レヲ診斷シ得ベキヲ信ズ。

出現方式

尙ホ窒扶斯及バラチフスノ發生當時ヨリ、菌全滅シテ治愈ニ至ル迄ノ全經

出現方式

過中ニ於ケル特殊の破壊酵素ノ出現方式 Anstrittsmodusノ順序ハ、之ンヲ下ノ三段ニ分ツベシ、即チ

窒扶斯初期ハ

過強異化作用

窒扶斯盛期及末期ハ

過強異化作用及ビ病的狀態

窒扶斯菌全滅後ハ

病的狀態

ナリトス、而シテ窒扶斯菌全滅後即チ全治後二十四日間ニ亘リテ、尿中破壊酵素ノ出現方式ハ、取リモ直サズ此ノ菌病的狀態ノミノ結果タリ。

サテ診斷ニ關スル雜俎ハ茲ニ擱筆シ、以下殊ニ學問的興味ノ下記兩點ニ就テ記載スル所アラントス。

ウキダール反應ト木内反應トノ比較抗體

ト破壊酵素トノ論別

余ハ先ヅ此ノ研索ノ第一着歩トシテ、ウキダール反應陽性ナル患者ノ尿ニ就テ木内反應ヲ試験セリ。

ウ氏陽性窒扶斯患者ノ木内反應



一、ウ氏陽性窒扶斯尿 子ホイチン 陽性 五九二

一、ウ氏陽性窒扶斯尿 Bバラチホイチン 陰性

一、ウ氏陽性窒扶斯尿 Aバラチホイチン 陰性

是ニヨリテウ氏陽性ナル腸窒扶斯患者ハ木内反應ニヨリテモ陽性ナリ。

ウ氏陽性バラB患者ノ木内反應

一、ウ氏陽性バラB尿 子ホイチン 陰性

一、ウ氏陽性バラB尿 Bバラチホイチン 陽性

一、ウ氏陽性バラB尿 Aバラチホイチン 陰性

是ニヨリテウ氏反應陽性ナルB型バラチフス患者ハ木内反應ニヨリテモ陽性ナリ。

ウ氏陽性バラA患者ノ木内反應

一、ウ氏陽性バラA尿 子ホイチン 陰性

一、ウ氏陽性バラA尿 Bバラチホイチン 陰性

一、ウ氏陽性バラA尿 Aバラチホイチン 陽性

即チウ氏陽性ナルA型バラチフス患者ハ木内反應ニヨリテモ陽性ナリ

サテ以上ノ反復試驗ニヨリウ氏反應陽性ナル時ハ必ズ木内反應モ陽性ナルコトヲ確メタルヲ以テ更ニ進ンデ前述試驗ト逆ニ先ヅ豫メ窒扶斯ノ尿診斷ヲナシ次ニ當該患者ノ血清ニヨリテウ\*ダール反應ヲ試ミ以テ木内反應ト對比研究セリ。

木内反應陽性窒扶斯患者ノウ氏反應

試驗方法ハ「ホルマリン」ニテ殺菌セル窒扶斯乳劑ニヨリテ法ノ如クウ\*ダール反應ヲ檢セリ其ノ成績左ノ如シ。

一、木内陽性窒扶斯血清 ウ氏反應 陰性

二、木内陽性窒扶斯血清 ウ氏反應 陽性

三、木内陽性窒扶斯血清 ウ氏反應 陽性

四、木内陽性窒扶斯血清 ウ氏反應 陰性

五、木内陽性窒扶斯血清 ウ氏反應 陽性

六、木内陽性窒扶斯血清 ウ氏反應 陽性

七、木内陽性窒扶斯血清 ウ氏反應 陰性

八、木内陽性窒扶斯血清 ウ氏反應 陰性



九、木内陽性窒扶斯血清

ウ氏反應

陽性

一〇、木内陽性窒扶斯血清

ウ氏反應

陰性

一一、木内陽性窒扶斯血清

ウ氏反應

陽性

一二、木内陽性窒扶斯血清

ウ氏反應

陽性

是レニ由リテ之レヲ觀レバ余ガ尿診斷ニヨリテ確定セラレタル腸窒扶斯患者ノ血清ハ、ウイダール反應ニヨリ多クハ陽性ナレドモ又陰性ノ場合アリ。余ハ此ノ陰性ニ了ハレル上五個ノ例ニ遭遇シテ大ナル疑問ニ陥レリ、即チ余ガ尿診斷ニヨリテ陽性タリシ者ノ中ニ於テ、往々ウイダール反應ノ一致セザルコトアリトセバ、二者ノ中其ノ一ハ必ず誤法ナルベキニ歸着ス、余ハ此ノ問題ヲ解決スベク先ヅ前述ウイダール反應陰性例ニツキテ其ノ發病時期ヲ調査セルニ一ハ發病四日ニシテ、他ノ三例ハ發病六日ニ、他ノ一例ハ發病十日ナリキ、此ノ事實ハ余ニ尠カラザル興味ヲ促進セリ。

即チ若シ余ガ木内反應ニシテ確實ナリトセンカ、木内反應ガウイダール反應ニ優ル窒扶斯診斷法タルヲ明示スルモノニシテ、而シテウイダール反應ハ斯カル早期ノ窒扶斯診斷ニ向テハ無能力ナリト云フニ歸着セザルベカラズ

發病時期

余ハ此ノ疑問ヲ解決セントシテ二方法ヲ試ミタリ、先ヅ直接ニ培養菌ヲ培養基ト共ニ蒸留水ヲ以テ二〇%ニ稀釋シ、其ノ五瓦ヲ以テ濾過法ヲ行ヒチホイチン反應ヲ檢セリ、其ノ成績左ノ如シ。

窒扶斯生菌液ノ検査

一、窒扶斯生菌液

チホイチン

陽性

一、窒扶斯生菌液

Bバラチホイチン

陰性

即チ是レニヨリテ生存セル窒扶斯菌液ニハチホイチンヲ分解スル破壊酵素ヲ含ムコトヲ知ル。

次ニ余ハ尙ホ一試験ヲ行ヘリ、即チ試験管中ニ余ガ腸窒扶斯菌培養ヲ移シ、之レヲ暫時煮沸シテ殺菌シ、數日間放置シテ破壊酵素ニヨル菌體分解即チ自家融解ト共ニ出現ス、ベキ其ノ破壊酵素ヲ以テチホイチンニ對スル分解作用ヲ檢セリ。

試験方法ハ上述試験管内ノ酵素液ヲ利用シテ濾過法ヲ應用セリ、其ノ成績次ノ如シ。

窒扶斯死菌液ノ検査



一、窒扶斯死菌液

チホイチン

陽性

一、窒扶斯死菌液

Bバラチホイチン

陰性

即チ余ガ試験管中ニ製セル加熱殺菌セラレタル腸窒扶斯菌液ハ、チホイチンヲ分解シテ、ペプトン及ビ、アミノ酸ヲ生ズルコトヲ確メタリ。以上兩様ノ菌液検査ニ微スレバ、窒扶斯菌液中ニ其ノ生菌タルト死菌タルトヲ問ハズシテ、破壊酵素ヲ融出セシムルヲ知ル。

今マ體中ニ竄入セル窒扶斯菌ハ、體內ニ於テ過強異化作用ヲ營ミ生存シツ、破壊酵素ヲ血中ニ游出セシムベク、又タ一方體內ニ於テ少許ノ病菌若シクハ死滅菌ノ生ジタル時ハ、所謂細菌自身ノ病的狀態トシテ、其ノ破壊酵素ハ菌殘骸若シクハ菌成分ト諸共ニ血中ニ放タレ尿中ニ出現スルモノニシテ、從ツテ立トコロニチホイチンヲ用ヒ窒扶斯尿診斷ノ成功ヲ見タルハ自明ノ理ナリトス。

換言スレバ余ガ法ニヨル窒扶斯診斷ハ正確ニシテ、試験管中ノ實驗ニ照ラスモ全ク符節ヲ合スルガ如ク謬ラザルコトヲ證明セラル。

以上ノ研究ニ連結シテ、余ハ直チニ上述ノ異例即チ木内反應ニヨリ陽性ニ

木内反應  
正確

シテ、ウ#ダール反應ニヨリ陰性ナリシ五個ノ血清ニ就キ、余ガ血清診斷ヲ試ミタリ、余ガ血清診斷法ニハ數種アレドモ、余ハ此ノ際血清量ノ關係上、次ノ二方法ヲ試ミタリ。

改良透析法

此ノ方法ハ總論ニ詳述セルヲ以テ説明ヲ省ク、其ノ成績左ノ如シ。

一、ウ氏陰性窒扶斯血清

チホイチン

陽性

一、ウ氏陰性窒扶斯血清

Bバラチホイチン

陰性

是レニヨリテ余ガ尿診斷ニヨリテ確定セラレタル腸窒扶斯患者ノ血清ハ、余ガ改良透析法ニヨリテ全ク一致セル成績ヲ示セリ。

新透析法

此ノ方法モ亦總論ニ示セルヲ以テ説明ヲ省ク、其ノ成績下ノ如シ

一、ウ氏陰性窒扶斯血清

チホイチン

陽性

一、ウ氏陰性窒扶斯血清

Bバラチホイチン

陰性

是レニヨリテ余ガ濾過法及二〇瓦間接式及ヒ濃縮法等ニヨリテ、尿ヨリ診斷セラレタル腸窒扶斯患者ノ血清ハ、余ガ新透析法ニヨリテ全ク一致シタ



ル成績ヲ示セリ。  
以上ノ試験ニヨリウダール反應ニヨリテハ不可能ナリシ場合ノ室扶斯診  
斷ガ余ガ濾過法改良透析法及ビ新透析法ニヨリテ頗ル容易ニ成功セリ此  
ノ實驗ハ余ニ非常ナル興味ヲ與ヘタルヲ以テ余ハ直ニ邁進シテ左ノ考ヲ  
浮ベタリ何ゾヤ

抗體  
破壞酵素ト

曰クウダール反應ノ主體タル抗體 Antikörper ト木内反應ノ主體タル破壞酵  
素 Minsformente トハ全然別體ニシテ此ノ間畫然タル區別アルベシト余ハ  
此ノ問題ノ解決ニ向ツテ下ノ方法ヲ以テ進ミタリ。

サテ破壞酵素ノ性狀ハ余ガ已ニ頻々トシテ天下ニ公示セル所ニシテ即チ  
其ノ最注目スベキ性質ハ動物膜ヲ自由ニ通過スルコトナリ余ハ實驗上余  
ガ新透析法(莢外基體法)ニヨリテ實用的學問的ニ此ノ事實ヲ確定シ而シテ  
更ニ血中ノ破壞酵素ガ腎臟ヲ通過シテ尿ニ出現スルコト及尿ヨリ破壞酵  
素ヲ分離シ得タルコトニヨリテ遺憾ナク證明セラレタリ依リテ余ハ茲ニ  
興味アル實驗ヲ抗體凝集素ニ就テ施セリ即チ先ヅ余ガ破壞酵素ニ就テ自  
由ニ行ヒ得タリシ各種ノ實驗ヲ此ノ凝集素ニ就テ覽メントセリ其ノ第一

着步トシテ左ノ實驗ヲ試ミタリ。

即チウダール反應陽性ナリシ腸室扶斯患者血清一立仙宛ヲ三個ノ透析莢  
中ニ盛り之レヲ左記ノ蒸餾水中ニ二十四時間透析シタリ。

- 第一莢該血清一〇〇 蒸餾水 一〇〇中ニ透析
- 第二莢該血清一〇〇 蒸餾水 五〇〇中ニ透析
- 第三莢該血清一〇〇 蒸餾水 一〇〇〇中ニ透析

以上三種ノ透析液ニツキテ法ノ如クウダール反應ヲ試ミタルニ其ノ結果  
下ノ如シ。

- 第一莢腸室扶斯血清透析液 陰性
- 第二莢腸室扶斯血清透析液 陰性
- 第三莢腸室扶斯血清透析液 陰性

凝集素

即チウダール反應陽性ナリシ腸室扶斯血清ノ透析液ハウダール反應陰性  
ナリ換言スレバ凝集素 Agglutinin ハ透析膜ヲ通過セズ。  
余ハ更ニ進ンデ此ノ眞理ヲ究メントシ次ノ試験ニ移レリ。  
即チ若シ凝集素ニシテ外液即チ透析液ニ出テズトスレバ勿論尿ニハ出ツ



ルコトナルベシ蓋シ尿ハ余カ屢々主張セル如ク透析液ニ相當スレバナ  
リ從ツテ吾人ハ尿ニヨリテウイダール反應不可能ナルベシ即チ直チニ其試  
驗ニ着手セリ。

尿ニヨルウイダール反應試驗

其ノ試驗方法トシテ余ハ先ヅ血清ニテウイダール反應陽性ナリシ腸室扶斯  
患者ノ尿及ビバラチフス患者尿ヲ二十四時間放置シテ上清尿ヲ弱アルカ  
リノ狀ニ於テ(即チ酸性ノモノハ炭酸那篤留膜ヲ加ヘテ弱アルカリ性トナ  
セリ)全ク血清ニ於ケルガ如ク法ノ如クウイダール反應ヲ試ミタリ其ノ成績  
下ノ如シ。

- 一、室扶斯尿 陰性
  - 一、バラB尿 陰性
  - 一、バラA尿 陰性
- 是レニヨリテ吾人ハ尿ニヨリテウイダール反應ハ全ク陰性ニ了リ成功セザ  
ルヲ知ル換言スレバ通常ノ場合ニ於テ凝集素ハ腎臟ヲ通過セズ。
- サテ以上ノ研究ヲ綜合スルニ室扶斯患者ハ其初期ニ於テハウイダール反應

屢々無能ニシテ之レニ代ハルベキ實用ニ適スル診斷法ハ余ガ濾過法及ビ  
濃縮法ニ在リトス而シテ今ウイダール法ト木内法トノ原理ノ差ハ畫然タル  
分界線ヲ存ス即チウイダール法ニアリテハ抗體ノ出現ヲ俟チテ決スベキ現  
象ナレドモ木内法ニ在リテハ破壊酵素ノ遊離ニ依リテ逸早く決セラルハ  
モノナリ然リ而シテ破壊酵素ハ當該室扶斯菌ヨリ融出スルモノニシテ從  
テ抗體ガ未ダ生體中ニ出現セザル以前ニ既ニ業ニ發散スルモノナリ而シ  
テ抗體ハ實驗上透析膜ヲ通過セザレドモ破壊酵素ハ容易ニ之レヲ通過ス  
即チ生體ニ於テ抗體ハ腎臟ヲ通過セザレドモ破壊酵素ハ腎臟ヲ通過スル  
モノナリ因テ抗體ハ尿ニ出現セザレドモ破壊酵素ハ尿中ニ出現ス是レヲ  
以テ抗體ヲ主體トスルウイダール反應ハ尿ニヨリテ不可能ナレドモ破壊酵  
素ヲ主體トスル木内反應ハ尿ニヨリテ之レヲ施行シ得ルモノトス。

結核尿診斷

余ハ既ニ肺病尿診斷條下ニ於テ總ベテ肺ニ疾患アル時ハ其ノ人ノ尿ヲ以



テ直チニ之レヲ診斷シ得ルコトヲ明言セリ、讀者諸君ハ恐ラク此ノ肺病ナル語ヲ以テ直チニ余ガ肺結核ヲ意味セルモノト逸早ク速斷セルモノアリシナラム、然レドモ开ハ學問上餘リニ大早計ナリ、諸君學問ノ研究ニハ焦セ<sup>ル</sup>ヲ禁<sup>トス</sup>必<sup>ズ</sup>漸<sup>ヲ</sup>趁<sup>フテ</sup>着<sup>實</sup>ニ且<sup>ツ</sup>系統<sup>的</sup>ニ進<sup>マザル</sup>可<sup>カラズ</sup>、余ハ當時已ニ此ノ結核尿診斷ニ言及セントセシカド、开ハ却ツテ別條ニ讓ルノ妥當ナルヲ信ジタレバ、爰ニ一步後レテ記述スル所以ナリ、其ノ故ハ何ゾヤ、曰ク、

肺病尿診斷ハ唯ダ肺ニ病氣アルカ否カヲ檢スルモノナリ。

結核尿診斷ハ其ノ肺病ガ果シテ結核ナルヤ否ヤヲ判ズルモノナリ。

即チ前者ハ疾患ノ所在ヲ決シ、後者ハ其ノ性質ヲ定ム、此ノ兩試驗ノ綜合ニヨリテ、始メテ其ノ人ハ肺結核ナリトノ斷定ヲ下シ得ルモノトス。

抑モ結核ニ關シテハ、古往今來苟クモ醫トシテ是レト惡戰苦闘セザルモノナシ、然レドモ其ノ治療ハ尙ホ甚ダ曖昧タルヲ免カレズシテ、要スルニ早期ニ診斷シ、清明ノ地ニ隔離シテ傳染ヲ防ギ、若クハ之レヲ早期ニ手術シテ漫散ヲ防ギ、滋味ヲ攝ラシメ慰安ヲ與へ、自然ノ力ニ俟テ病機ヲ停止セシメン

トスルニアルハ、是レ實ニ現今ノ療則タルコト何人モ亦タ是レニ異存ヲ唱フル能ハザルモノトス。

從ツテ刻下其ノ治療ニ關シテ最モ必要トスルトコロハ結核ノ早期診斷ナリ、換言スレバ確乎タル結核ノ早期診斷法ニアリトス、余曾テ叫テ曰ク、診斷ハ最良ノ治療タリト、今ヤ結核ヲ論ズルニ及ンデ、殊ニ其ノ適切ナルヲ覺フルモノナリ。

彼ノツベルクリンヲ以テセル皮下注射反應ノ如キ、ビルケ―反應ノ如キ、抑モ又結膜反應ノ如キ、様々ニ云爲セラレ、評論セラレ、其ノ確診的價値ハ日ヲ逐フテ失墜シツ、アルノ今日ニ當リ、余ハ殊ニ輕信スベクモアラザル各種ノ西洋名ヲ附シタル文献ヲ羅列シテ、徒ラニ印刷者ヲ勞スルノ愚ヲ敢テスルモノニアラズ、況ンヤ余ガ業績ニハ余以前ニ一ノ文献ナキニ於テヲヤ、即チ短兵急ニ此ノ大問題ニ直進ヲ試ミントスルモノナリ、諸君是レヲ諒セヨ。籲ツテ畜産界ヲ顧ルニ、乳牛結核ノ査定問題ハ畜産上容易ナラザル事件トシテ議論ノ焦點ニアリ。

論者之レヲ大ナル經濟的見地ヨリ說イテ曰ク、有害不確實ナルツベルクリ



「反應」ノ結果、乳汁分泌ヲ衰ヘシムルガ如キハ蓋シ默過スベカラズ、寧ロ加熱消毒ノ完全ヲ期スルニ如カズト、然レドモ之レヲ專ラ衛生的見地ヨリ論斷スル者ハ、無害的確ナル診斷方法ノ發見セラル、迄ハ「ツベルクリン」反應ニヨルモ結核牛ヲ檢出シ、吾人衛生上ニ資スベキヲ以テス。

余ヲ以テ之レヲ評スレバ、兩者ノ論點ハ一ニ歸スルヲ覺フルモノナリ、何ヲ以テ爾カ云フ、曰ク、兩者トモニ確的無害ナル結核診斷法ヲ希望セントスルニ於テハ一ノミ。

案ズルニ現下結核牛ノ査定方法タル「ツベルクリン」皮下注射反應ハ斷ジテ權威アル結核診斷法ニ非ザルコト、既ニ一汎ノ認ムルトコロナリ、況ンヤ其ノ注射ニ當リテ動物ヲ勞苦セシムルコト明ラカニシテ、其ノ主要トスル反應熱ノ如キモノハ、人工的ニ之レヲ左右スルコト決シテ難事ニアラザルヲヤ。

堅忍幸ニ其ノ成果ヲ齎ラセル余ガ結核尿診斷ハ、悉ク此レ等ノ缺陷ヲ充セルモノニシテ、加フルニ遺憾ナク診斷學ノ理想ニ合セルヲ喜ブ、即チ結核尿診斷ハ早期的確、簡便、無苦痛、無危險ニシテ且ツ客觀的タリ。

既ニ其ノ尿ニヨリテ診斷ヲ決スルニ於テハ、動物身體ニ何等ノ異變ヲ招來セズ、從ツテ乳汁分泌上些末ノ影響ヲ呈スルモノニ非ズ、而シテ吾人衛生上ノ杞憂モ、凡テノ枝葉的小論ヲ須ヒズシテ茲ニ全ク一掃スルヲ得ルニ至レルハ、余ガ天下ト共ニ大悅セントスルトコロナリ。

今聊カ其ノ原理ヲ論述セントス。

抑モ結核菌 *Tuberkelbacillen* ハ人畜ニヨリテ其ノ感受性ヲ異ニスト雖ドモ、其ノ生物學的特殊性 *biologische Spezifität* ハ人畜結核菌トモニ全ク同一タリ、之レヲ詳言スレバ結核菌中ノ働體タル建設酵素及ビ破壞酵素ハ凡テノ結核菌ニ於テ同一ナリ、故ニ今若シ結核菌ガ身體組織ノ何處カニ侵入センカ、異性細胞ト同一視スベキ彼等細菌ハ、新陳代謝ノ過強現象トシテ茲ニ過強異化作用ヲ營ミ、之レニ加フルニ其ノ増殖ノ途上ニ於テ一部菌體自身ノ病的狀態ヲ惹起シ、菌ノ死滅ヲ見ルコト往々ナリ。

然リ而シテ前者ハ即チ生菌ノマ、ニ其ノ破壞酵素ヲ血中ニ放散シ、後者ニアリテハ死菌ノ結果破壞酵素ヲ血中ニ送出ス、今此ノ二條件若シクハ其ノ一條件ニヨリテ、已ニ結核菌體ノ不全異化物或ハ其ノ殘骸零碎ヲ趁ツテ血



中ヲ奔流シツ、アル結核菌破壊酵素ハ巡リ巡リテ腎臟ニ至リ、其ノ透析性ヲ發揮シテ腎臟ヲ通過シ、遂ニ尿中ニ出現スルモノトス。

六〇六

此ノ事實ハ一汎的ニシテ、人然リ、牛然リ、諸動物亦凡テ然リ、苟モ結核菌ヲ身體ニ荷フモノハ、凡テ其ノ尿若シクハ血液中ニ結核菌特殊の破壊酵素ヲ證明シ得ルモノニシテ、換言スレバ結核尿診斷ハ、凡テ動物ニ對シテ一様ニ通用スルコトヲ得ルモノナリ、而シテ其ノ箇所何所ハ敢テ問フトコロニ非ズ、例之ハ今結核ニシテ肺ニ發生スルモ、乳房ニ蟠居スルモ、骨ニ侵入スルモ、將タ皮膚ニ蔓延スルモ、凡テ同一破壊酵素ヲ尿中ニ出現セシムルモノナリ。

余ハ此ノ破壊酵素ノ證明ニ向ツテ該當スル結核菌基體ヲ製出シ、之レヲテベサミン Tebesamin ト呼稱シ實用ニ便セリ。

即チテベサミンニヨリテ吾人ハ人畜ノ結核ヲ立所ニ確診スルヲ得ベク、且ツ身體中何所ニ潜在スルモ、之レヲ檢出シ得ルコト容易ナリ。

#### 診斷用品

一、結核診斷基體テベサミン Tebesamin

一、血炭

一、パンブロール

一、診斷具

必要ナル物品トシテハ左ノ四件ナリ。

#### 診斷方法

結核尿診斷ハ余ガ舉ゲタル凡テノ方法ニヨリテ成就スレドモ、左ノ二方法ヲ便トス。

濃縮法

濾過法

右ノ中尿量ノ多寡ニ應ジテ何レナリトモ選ブベシ。

#### 診斷例示

結核尿診斷ニ關スル數例ヲ示スコト左ノ如シ。

肺結核尿(第一期)	テベサミン	陽性
肺結核尿(第二期)	テベサミン	陽性
肺結核尿(第三期)	テベサミン	陽性



牛肺結核尿	テベサミン	陽性
牛乳房結核尿	テベサミン	陽性
淋巴腺結核尿	テベサミン	陽性
肋骨カリエス尿	テベサミン	陽性
喇叭管結核尿	テベサミン	陽性
膀胱結核尿	テベサミン	陽性
睪丸結核尿	テベサミン	陽性
腎臟結核尿	テベサミン	陽性
結核性腹膜炎尿	テベサミン	陽性
結核性肋膜炎尿	テベサミン	陽性
皮膚結核	テベサミン	陽性

是レニヨリテ結核患者ノ尿ハ總テテベサミンヲ分解スルコトヲ見ル。  
但シ上記結核患者ハ豫メ直接結核菌ヲ證明セルモノ、及ビ臨床上結核ト診  
斷セラレ、手術後顯微鏡的ニ結核菌若シクハ結核巨態細胞ヲ證明セル所ノ  
モノトヲ含ム。

尚ホ結核ヲ有セザル患者及ビ健者ニ對シテテベサミン反應ヲ檢セシコト  
左ノ如シ。

微毒尿	テベサミン	陰性
淋病尿	テベサミン	陰性
癌腫尿	テベサミン	陰性
健男尿	テベサミン	陰性
健女尿	テベサミン	陰性
健牛尿	テベサミン	陰性
健馬尿	テベサミン	陰性
蒸餾水	テベサミン	陰性

即チ結核患者以外ノ患者及ビ健者ノ尿ハ決シテテベサミンヲ分解セザル  
コトヲ知ル。

以上二事實ニヨリテ、吾人ハ明カニテベサミンヲ以テ結核ノ有無ヲ其ノ尿  
ヨリ診斷スルコトヲ得ルモノナリ。

診斷適用



健康診断

人間及び牛其ノ他諸動物ノ結核病 Tuberkulose ノ診断ニ向ツテ、凡テ同様ニ應用スルコトヲ得。  
而シテ如何ナル部位及び如何ナル臓器ノ結核診断ニ對シテモ、凡テ同様ニ**テベサミン**反應ヲ適用スルコトヲ得。  
本診断ハ殊ニ健康診断ニ向ツテ極メテ重用ナリ。

診断注意

結核尿診断上二三ノ注意ヲ述ブベシ。

第一 結核母乳若シクハ結核牛乳ヲ吞ミツ、アル嬰兒及び小兒ノ尿ハ**テベサミン**反應陽性トナル。

故ニ斯カル嬰兒及び小兒ニ就テ結核診断ヲ行ハントスル時ニハ、其ノ哺乳ヲ廢シテヨリ二十五日目以後ノ尿ニ就テ検査スベシ。

第二 結核菌全滅後モ、二十四日間ハ尿中ニ破壊酵素ヲ出現セシムルモノトス、然レドモ全滅後二十五日目以後ニハ決シテ**テベサミン**陽性ヲ呈セズ。故ニ或ル結核治療ガ根治的ナリシヤ否ヤヲ知スルニハ、其ノ治療若シクハ手術後二十五日目以後ノ尿ヲ取リテ検査シ、果シテ**テベサミン**陰

性トナラバ全治セルモノナルヲ知ル。

第三 肺結核ノ診断ヲ下サンニハ、**テベサミン**反應ノ外ニ**ブルゼリン**反應陽性ヲ要ス。

第四 尿ノ新舊ヲ問ハズ。

第五 乳牛ノ結核検査ニ當リテハ強チ尿ヲ採ラズトモ、直接其ノ牛乳ヲ搾取シテ**テベサミン**反應ヲ檢スルモ可ナリ、即チ之レヲ蒸留水ニ四〇%ニ稀釋シ、其ノ五瓦ヲ以テ濾過法ヲ行フベシ。

乳汁診断

診断雜俎

余ハ癒着性子宮後轉ヲ患フル一婦人ニシテ、臨床上未ダ從來ノ方法ニテ結核ノ診断ヲ下ス克ハズ、サリトテ又他ノ診断名モ附スル能ハザル慢性病ニ向ツテ尿診断ヲ施セルニ、**テベサミン**反應陽性ヲ得タリ、其ノ後患者ノ希望ニヨリ癒着剝離ト位置矯正トノ目的ヲ以テ、開腹術ヲ施シ検査セルニ、左側喇叭管ガ少シク大トナリ、慢性症ニ陥リ硬度ヲ増セリ、由リテ癒着剝離後其ノ喇叭管ヲ切除シ、子宮ハギリアム法ニヨリテ固定セリ、術後該喇叭管ヲ鏡檢シテ結核巨態細胞ノ多數及び結核菌ヲ發見セルハ、甚ダ愉快ニ感ゼルト



コロナリ。

六一二

又タ膀胱炎ノ病名ニヨリテ治療中ノ一婦人ニ對シ、尿診斷ヲ試ミテベサミン陽性ヲ得タリ、患者ハ一時退院セルガ、其ノ後再ビ來レルヲ以テ、試ミニ腎臟病診斷ヲ施セルニ陽性ヲ得タリ、而シテ精査セルニ左側腎臟ヲ觸知スルニ至レリ、該患者ハ函館病院外科ニ於テ左腎摘出ノ結果治療退院セリ。結核尿診斷ノ應用ハ單ニ内臟ニ止マラズシテ、上例ノ如ク泌尿生殖器病ニ於テモ倍々利益ヲ呈セントス、加之皮膚病方面ニ於ケル活用ハ、愈々其ノ興味ヲ語ラントスルモノナリ。

余ハ狼瘡 Lupus 患者ノ送尿ヲ檢シテテベサミン反應陽性ヲ得タリ、而シテ對照トシテ行ヘルルエゼリン反應及ビカンセリン反應ハ共ニ陰性ナリキ。今マデ余及ビ余ガ研究生諸氏ノ行ヘル結核尿診斷ハ、正ニ四百餘例ニ達シ殊ニテベサミン反應トブルゼリン反應トヲ兼行スル場合ニ於テ、肺結核ノ早期診斷ハ確然トシテ行ハレ、診斷當時聽診、打診上未ダ何等ノ著變ナカリシモノガ、目下皆其ノ臨床的症候ヲ呈シ來リタルハ、自ラ同僚ト共ニ其ノ甚的確ナルニ驚嘆セシヲ自白セントス。

尙ホ方法ハ已說ノ如ク濃縮法若シクハ濾過法ヲ便トスレドモ、要スルニ與ヘラレタル尿量次第ニテ、如何様ニモ行フヲ得ベク、又要求セラレタル時間ニ從ツテ、尿量ヲ適宜ニ取リテ適法ヲ選ブベシ、短時間ニ決セントセバ勞ヒ濃縮法ニ據ラザルベカラズ、野嶽利七氏ハ濃縮法ニヨリ結核尿診斷ヲ行ヒ、即チ三回濾過三十分反應ニシテテベサミン陽性ヲ得タリト。

### 徵毒尿診斷

コロムブスノ一隊ガ亞米利加ヨリノ土産物トシテ歐州ニ齎ラセル徵毒ハ、醫學上絶好ノ研究課題トシテ今ニ吾人ヲ樂マセツ、アリ。想フニ徵毒ノ如ク忌ムベキ憎ムベキ疾患ハ其ノ數多カラズ、彼レ決シテ人命ヲ奪フコト急ナルニ非ズト雖モ、所謂獅子身中ノ蟲トシテ猛者モ亦自ラ不動ノ金縛ニ陥ラズンバ非ルナリ、況ンヤ其ノ妻ニ移リ其ノ子ニ傳ハリ、其ノ孫ヲ萎ヘシムルニ於テヲヤ、人文ノ發達ヲ阻碍スルコト決シテ急性傳染病ノ害ヲ以テ比スベカラザルナリ。

六一三



而シテ微毒ノ侵ストコロハ身體ノ凡テノ箇所ニ亙リ、從ツテ内臟微毒ニ至リテハ其ノ症狀モ千差萬別ニシテ、醫師ヲ惑ハスコト甚ダシク、學者ハ種々ニ之レヲ研究シテ或ハ血清ニヨリ、或ハ皮膚反應ニヨリ、之レガ判定ニ出デントセシガ、悲哉微毒ノ全期間ヲ通ジテ統一の診斷ヲ與フルノ良法ハ、遂ニ今日迄一モ出現スルニ至ラズ。

原理

吾人治療家ニ取リテ最大苦痛ハ單リ此ノ診斷ニ止ラズ、治療シツ、アル微毒患者ガ、果シテ全治セルヤ否ヤヲ確的ニ定ムルノ良法ナキコト是レナリ。余ハ診斷及ビ治療上ニ於ケル此ノ二難ニ苦シメラル、コト茲ニ幾年ニ亙リ、眞率ナル醫師ノ立場ヨリシテ、到底現今ノ微毒診斷法ハ之レヲ一新セザレバ、安心出來ルモノニ非ズ、ノ念慮ヲ堅メ、益々其ノ研究ニ耽溺セリ。案ズルニ微毒「スピロヘーテ」ガ血中ニ入り、皮膚ニ現ハレ、臟器ヲ襲フニ至ルノ事實ハ、彼レガ身體中ニ於テ増殖ヲ擅マ、ニスルニ歸因セズンバアラズ、既ニ急性増殖ヲ營ム以上ハ、余ガ所謂過強異化作用ハ茲ニ成立スベキモノトス、而シテ一方無數ナル「スピロヘーテ」中ノ或ルモノハ、或ハ血中ニ於テ死滅シ落伍スルニ至ルベシ。

今マ微毒患者身體中ノ「スピロヘーテ」ガ或ハ増殖シ、或ハ死滅スル此ノ狀況ヨリシテ、次説ノ發展ヲ見ル。  
抑モ菌體ハ細胞ト同ジク建設酵素 *Eusfermente* 及ビ破壊酵素 *Misfermente* ヲ含有シ、而シテ一朝建設酵素ニシテ死滅センカ、所謂菌體ノ病的狀態ニシテ即チ破壊酵素ハ飽クマテ菌體ヲ破壊シツ、殘骸ヲ趁フテ血中ヲ奔流シ、腎臟ヲ通過シテ尿中ニ出現スルモノナリ、然リ而シテ一方急性増殖ノ結果、過強異化作用アルニ當リテハ建設酵素ノ死滅セザルモ破壊酵素ノ一部ハ菌體ヲ放レテ血中ニ放離シ尿中ニ出現ス、故ニ微毒患者ノ尿中ニハ、凡テノ期間ヲ通ジテ「スピロヘーテ」バリダヲ分解スベキ特殊性ヲ有スル破壊酵素ノ出現ヲ見ルモノナリ。  
余ガ微毒尿診斷ハ、茲ニ如上ノ原理ニヨリテ美シキ成效ヲ見タル所以ニシテ、而シテ余ハ之レニ要スル「スピロヘーテ」基體ヲ製出シ、之レヲルエゼリン *Ineserin* ト稱セリ。

診斷用品

一、微毒診斷基體ルエゼリン *Ineserin*



一、血炭

一、パンブロール

一、診斷具

基體ルエゼリンハ一回使用量約〇・〇五瓦ナリ、基體匙ニテ五杯ヲ量リ投ズレバ約〇・〇五瓦ニ當ルベシ。

診斷方法

微毒尿診斷ハ方法トシテハ余ガ提供セル凡テノ方法ニヨリテ成就スレドモ、就中濃縮法及ビ濾過法ノ二者ヲ可トス、尿量ノ都合ニヨリ何レカヲ選ブベシ。

蓋シ斯カル尿ニハ往々ニシテ有毒細菌ノ混ズルコトアルベキヲ以テ、濃縮法ヲ用フレバ煮沸ニヨリテ同時ニ此レ等細菌ヲ撲滅シ去リ、術者ハ寔ニ安心シテ試験ヲ行ヒ得ルノ利益アルベシ。

診斷例示

第一期微毒尿	ルエゼリン	陽性
第二期微毒尿	ルエゼリン	陽性

第三期微毒尿

ルエゼリン

陽性

變性微毒尿

ルエゼリン

陽性

遺傳微毒尿

ルエゼリン

陽性

余ハ既ニ各例ヲ重ヌルコト百五十回ニ達スレドモ一ノ誤診ニ遭遇セズ、安心シテ治療ノ方針ヲ定メ得ルニ至リシハ實ニ愉快トスルトコロナリ、殊ニルエゼリンガ微毒ノ凡テノ期間ヲ通ジテ有効ニ反應スルノミナラズ、實ニ又變性微毒及ビ遺傳微毒ニ對シテモ、的確ニ其ノ反應ヲ呈スルハ至便ナリト信ズ。

尙ホ微毒ナラザル他ノ患者尿等ニ對シテ、ルエゼリンガ如何ニ反應スルカヲ檢セルニ下ノ如シ。

結核尿	ルエゼリン	陰性
癌腫尿	ルエゼリン	陰性
肉腫尿	ルエゼリン	陰性
脚氣尿	ルエゼリン	陰性
肝チヌストマ尿	ルエゼリン	陰性



淋病尿	ルエゼリン	陰性
健者尿	ルエゼリン	陰性
馬尿	ルエゼリン	陰性
牛尿	ルエゼリン	陰性
山羊尿	ルエゼリン	陰性
家兔尿	ルエゼリン	陰性
蒸餾水	ルエゼリン	陰性

即チ非微毒ナル是レ等材料ハ凡テルエゼリン反應陰性ナリ、但シ上記諸患者ハ問診上及ビ臨床上微毒ノ疑ナキモノノミヲ取リテ試験ニ供セリ。之レヲ要スルニルエゼリンヲ以テ微毒ノ有無ヲ診斷スルニ容易ナリ。而シテ本診斷ガ斯カル確證的安心ヲ吾人ニ與フルノミナラズ、吾人ガ排泄物ニシテ而カモ日常最モ多ク放棄スル尿ニヨリテ之レヲ決シ得ルハ、更ラニ其ノ利便ヲ助成スルモノト云フベシ。

由來診斷學上ノ余ガ理想トシテ、診斷ハ無苦痛タルベシヲ告白セリ、今マ彼ノ血清診斷ノ如キ皮膚反應ノ如キハ、尠ナクトモ人體ニ向ツテ一ノ苦痛タ

「ルエゼリン」應用

微毒治否決定

ルヲ免レザルハ甚ダ遺憾トスル所ニシテ余ガ理想ト背反スルヲ公表セザルベカラザルナリ。

サレドルエゼリンハ單リ尿診斷ニ止マラズ、血清、血液及ビ乳汁、瘡液、其ノ他ニヨリテ微毒ヲ診斷スルニ適當スル基體タルコトヲ認知スベシ、是等方法ハ已ニ總論篇ニ記述スルヲ以テ茲ニ省略ス。

尙ホ微毒治否ノ診斷ニ向ツテルエゼリンヲ使用シ全ク前述ト同方法ニヨリテ之レヲト知シ得ベシ、即チ吾人ガ微毒患者ヲ治療シツ、アリテ大凡ソ治療シタラント思フ時分ニ、其ノ尿ヲ取リテルエゼリン反應ヲ試ミ確實ニ陰性タルヲ證セバ、即チ微毒ハ全治セルモノナリ、但シルエゼリン反應ハ身體中ノ微毒「スピロヘーテ」ガ全滅後モ、尙ホ二十四日間ハ微弱ナガラ陽性ヲ呈スルコトアルモノトス。

檢尿「レツテル」

檢尿ハ三〇〇瓦即チ約一合七勺ヲ瓶中ニ取り、直チニ左ノ如ク符記セル「レツテル」ヲ貼付スベシ。

一、姓名及年齢



一、驅微療法ノ有無

一、採尿月日

一、診斷事項

診斷雜俎

余ハ既ニ微毒尿診斷ノ成效ヲ、大正四年四月五日發行ノ醫學中央雜誌第二〇三號紙上ニ、室扶斯尿診斷ト共同ニ發表セリ、當時尙ホ未ダ多ク基體ヲ得ル能ハザリシガ、努力ノ結果漸ク今日アルニ至リ、未ダ甚ダ潤澤ナラズト雖モ、廣ク天下ニ頒ツテ樂ヲ共ニシ得ルニ至リシヲ喜ブモノナリ。

尙ホ當時ワ、氏反應陰性ニシテ診斷不可決ナリシ數例ニ於テ、余ハ木内反應ニヨリ微毒ヲ決定シ得タリシコトヲ報告セリ。

醫學得業士野嶽利七氏ハ微毒患者ニ於ケルルエゼリン反應陽性ヲ實驗報告セリ。

女醫横山信子ハ微毒患者二十例ニ就キルエゼリン反應陽性ヲ實驗シ、非微毒者五例ニ於テルエゼリン反應陰性ナリシコトヲ報ゼリ。

余ハ函館病院外科ニ於テ、邦製サルワルサンヲ注射セル微毒患者ノ多クヲ

「サルワルサン」  
「ルエゼリン」

檢尿シ、ルエゼリン反應ヲ連續的検査セルニ甚ダ興味アル事實ヲ發見セリ、即チ邦製サルワルサン〇・四瓦ヲ一回若シクハ二回注射セル微毒患者ハ、ルエゼリン反應尙陽性ノ場合多ク、第三回又ハ第四回ニ至リテ始テ陰性トナル場合多シ、是レニ由リテ觀レバ、サルワルサン〇・四瓦入ヲ以テ微毒ヲ全治セシメントスルニハ、尠クトモ三回乃至四回ノ靜脈注射ヲ要スルコトヲ察知スルニ足ル。

今左ニ三回注射ノ微毒患者尿五立仙ニ對シテ、定量的方法ニヨリ破壊單位ヲ測定セル三週間連續検査ノ成績ヲ示スベシ。

邦製サルワルサン〇・四瓦入三回注射患者尿

- 注射後第八日 五單位
- 注射後第九日 五單位
- 注射後第十四日 三單位
- 注射後第十五日 二單位
- 注射後第十六日 一・四單位
- 注射後第十七日 〇・八單位



注射後第十八日

零

注射後第十九日

零

注射後第二十日

零

注射後第二十一日

零

即チ「サルワルサン」○四瓦ヲ三回注射セル徵毒患者ノ尿ガ其ノ破壊酵素ヲ注射後第十七日マデ出現セシメタルコトヲ記スモノナリ、然レドモ其ノ十八日目ヨリハ尿中全ク破壊酵素ヲ定量的ニ證明セズ、換言スレバ該患者ハ三回注射ニヨリテ全ク徵毒ヲ根治シ得タルコトヲ知ル。

余ハ尙今日緊張シタル興味ヲ以テ各例ヲ調査シツ、アルガ「サルワルサン」○四瓦ノ一回注射ヲ以テ徵毒根治ノ一例ダモ見ザルコトヲ茲ニ併セテ告白スルモノナリ。

### 淋病尿診断

俗惡ナル疾病ノ巨魁<sup>○</sup>淋病<sup>○</sup> Gonorrhoe ハ之ヲ様々ニ治療スルモ、中々ニ根絶シ

得ザルヲ以テ恨ミトナス。

彼レ固有ノ「ゼンメル」形双球菌タル淋菌 Gonokokken ガ人生ニ對スル擲擄ニ過ギザルベキモ、始終其ノ所ダケニ蠢動スルモノニ非ズ、往々ニシテ發展自在彼ノ恐ルベキ頑固ナル關節炎ヲ誘發セシムルコトアリ。

想フニ現今不確ノ慢性病ニシテ彼レガ傀儡タルモノ、必ズヤ二三ニシテ止マラザラン。

是レ余ガ淋病ヲ輕視セザル所以ナリ。

淋瀝立ドコロニ尿道ヲ侵セル彼レハ其ノ膿中ヨリ顯微鏡的ニ証明スルコト甚ダ容易ニシテ、要スルニ微菌染色検査ノ最モ初步ニ屬スルモノナリ、而シテ尿中ニ之レヲ染色檢出スルコトモ亦同様ニ容易ナルヲ以テ、淋病ノ尿診断ハ殆ド蛇足ノ感ヲ與フレドモ、考一考スルニ決シテ其ノ然ラザルヲ知ル。蓋シ淋病ノ厭フベキハ其ノ慢性ニ持久スルコト是レナリ、而シテ慢性淋ニアリテハ直接檢菌ノ不可能ナルコト屢々ニシテ、從ツテ單ニ鏡檢的陰性ニヨリテ吾人ガ患者ノ出問ニ對シ「治癒」ノ一言ヲ與フルニ躊躇セシコト幾回タルヲ知ラズ、況ンヤ淋毒性關節炎ノ確診ヲ與フルコトハ、愈々以テ難事タ



ルオヤ。

原理

此ノ時ニ當リテ酵素學的診斷ハ蓋シ無上ノ權威ヲ示スモノニシテ、淋病尿  
診斷ノ樞要ヲ呼バシムル所以ナリ、而シテ其ノ原理トスルコロハ淋菌自  
身ノ過強異化作用若シクハ菌體ノ病的狀態ニアリテ、其ノ破壞酵素ガ血中  
ニ游出シ尿中ニ出現スルニアリ、但シ急性淋ノ如キニアリテハ既ニ其ノ土  
着點タル尿道及ビ膀胱内ノ淋菌ヨリ、直接尿中ニ其ノ破壞酵素ヲ發散セシ  
ムベキヲ以テ、未ダ血中ニ證明セザルニ當リテ、逸早ク尿中ニハ其ノ檢出ニ  
成就スベシ。

診斷用品

- 一、淋病診斷基體 ウリゴノン Urignon
- 一、血炭
- 一、パンブロール
- 一、診斷具

診斷方法

方法トシテハ殊ニ濃縮法及ビ濾過法ヲ可トス、尙ホ其ノ他ノ余ガ凡テノ尿

診斷法ヲ應用スルモ同様ニ成就ス。

診斷例示

左ニ一二ノ例ヲ拔萃シテ示サン、先ヅ慢性ノモノニ對スル検査左ノ如シ。

慢性尿道炎(鏡檢陰性)	ウリゴノン	陽性
喇叭管膿腫(鏡檢陰性)	ウリゴノン	陽性
攝護腺炎(鏡檢陰性)	ウリゴノン	陽性
睪丸炎(鏡檢陰性)	ウリゴノン	陽性
卵巢炎(鏡檢陰性)	ウリゴノン	陽性
慢性內膜炎(鏡檢陰性)	ウリゴノン	陽性
淋毒性膝關節炎	ウリゴノン	陽性
結核性膝關節炎	ウリゴノン	陰性

是レニヨリテ吾人ハ慢性淋病ニ當リ、既ニ鏡檢上淋菌ノ存在ヲ證スルコト  
能ハザルモノニアリテモ、酵素學的尿診斷ヲ應用シ、淋菌基體陽性ニヨリテ  
之ヲ確知スルコトヲ得、而シテ淋毒性關節炎ハ反應陽性ナレドモ、結核性關  
節炎ハ陰性タリ。



尙ホ左ニ急性淋ノ検査例ヲ舉ゲン。

急性尿道炎(鏡檢陽性)	ウリゴノン	陽性
急性膀胱炎(鏡檢陽性)	ウリゴノン	陽性
軟性下疳(鏡檢陰性)	ウリゴノン	陰性
蒸餾水	ウリゴノン	陰性

即チ急性泌尿器病ニシテ淋毒性ノモノハ、早期ナリトモ陽性反應ヲ呈ス。  
 以上ニヨリテ余ガ淋病診斷基體ウリゴノンニヨリテ、慢性及ビ急性ノ淋毒  
 性疾患ノ有無ヲ決定スルコトヲ得。

診斷適用

本診斷ハ淋菌ニヨリテ起ル凡テノ疾患ニ應用セララル、試ミニ其ノ主ナルモ  
 ノヲ枚舉スレバ、

慢性尿道炎、淋毒性喇叭管炎、同攝護腺炎、同睪丸炎、同卵巢炎、同內膜炎、同關  
 節炎、同膀胱炎、急性尿道炎、膿漏眼等ナリトス。

診斷注意

第一 淋病尿診斷ニ當リテハ、淋病感染後二十四時間ニ充タズシテ既ニ之

レヲ診斷スルコトヲ得。

第二 淋菌ガ身體中ニ存スル間ハ、幾年ヲ經過セル慢性症ニアリテモ、之レ  
 ヲ尿診斷スルコトヲ得。

第三 淋菌全滅後モ二十四日間ハ陽性反應ヲ呈スルコトアリ、然レドモ全  
 滅後二十五日目以後ノ尿ニ於テハ全ク陰性トナル。

第四 淋病ト微毒トヲ一時ニ檢セントスル時ハ、對照管利用法ニヨルヲ便  
 ナリトス。

第五 淋菌ハ其ノ性質ノ如何ニヨリテ、酵素ノ量ニ多少ノ差ヲ生ズルコト  
 アルヲ以テ、三本試驗ヲ行ヒ七、八、九ノ三時間ニ亘リテ連續檢色ヲ試ムル  
 ヲ興味アリトス。

第六 尿ノ新舊ヲ問ハズ。

診斷雜俎

淋病尿診斷ノ効用ハ慢性淋毒性疾患ノ診斷ニ際シテ著ルシキヲ覺フルモ  
 ノナリ、余ハ下腹緊滿疼痛ヲ主訴トスル一婦人ヲ、卵巢囊腫兼淋毒性附屬器  
 炎トシテ收容シ檢尿セルニ、淋病反應陰性ニシテ結核反應陽性ヲ得タリ、依



リテ之レヲ開腹手術セシニ、結核性腹膜炎兼結核性附屬器炎ナリキ、其ノ後患者ハ全治退院セリ。

### 嬰兒疾患ノ尿診斷

之レヲ字義ヨリ解釋スレバ、嬰兒トハ初生兒及ビ乳兒ノ二義ヲ含有スレドモ、之レヲ嚴密ニ解スルトキハ未授乳兒及ビ授乳兒ノ二義ヲ含ムベシ。

余ハ破壞酵素 *Minsfermente* ガ乳汁ニ出現スルヲ發見スルト同時ニ、下ノ考ニ向テ研究ノ歩ヲ進メタリ。

今若シ破壞酵素ニシテ乳汁ニ出ヅルトセバ、其ノ乳ヲ吞ミタル嬰兒即チ授乳兒體中ニ入りタル破壞酵素ハ、果シテ如何ナル運命ヲ取ルベキカ。

此ノ詮索ハ大ナル興味ヲ余ニ促進セルヲ以テ、余ハ直チニ其ノ研究ニ著手セリ。

研究方法トシテ余ハ先ヅ上述ノ未授乳兒ト授乳兒トニツキ、比較研究ヲ以テ其ノ第一壘ノ突破ヲ試ミタリ。

抑モ兒ノ分娩スルヤ、母體ノ授乳シ得ルマデニハ多少時日ヲ要スルヲ常トス、此ノ期間ニ於テ吾人ハ通常人工的ニ營養スルモノニシテ、余ハ專ラ糖液ヲ此ノ期間ニ與ヘツ、アリ、此ノ状態ニアル初生兒ハ即チ未ダ母體ノ乳汁ヲ吞マザルモノニシテ、余ガ所謂未授乳兒タリ、余ハ先ヅ分娩後初回ノ兒尿ヲ秤量セル、脱脂綿ニ濕潤セシメ、更ニ秤量シテ一定量ノ蒸餾水中ニ浸出シ、其ノ浸出液ヲ濃縮シテ濕潤尿量ニ至ラシメ、之ニ就テニンゼリン *Ninserin* ヲ基體トシ、濾過法ニヨル尿検査ヲ行ヘリ。

而シテ一方ニハ既ニ授乳セル嬰兒即チ余ガ所謂授乳兒ノ尿ヲ前述ト同様ノ方法ヲ以テ採取シ、其ノ浸出液ニヨリニンゼリンヲ基體トシ、同ジク濾過法ニヨリテ尿検査ヲ行ヘリ。其ノ成績下ノ如シ。

#### 未授乳兒尿ノ検査成績

- 生後第一日尿 陰性
- 生後第一日尿 陰性
- 生後第二日尿 陰性



生後第三日尿

陰性

生後第二日尿

陰性

生後第二日尿

陰性

生後第一日尿

陰性

是レニヨリテ未ダ授乳セザル嬰兒ノ尿ニハ、ニンゼリンヲ分解スル破壊酵素ヲ證明セズ。

次ニ余ハ進ンデ此等ノ嬰兒ヲ引キ續キテ検査シ授乳セシムルニ至リテ、又夫々検査ヲ行ヘリ。

其ノ試験成績左ノ如シ。

授乳第一日尿

陽性

授乳第二日尿

陽性

授乳第五日尿

陽性

授乳第一日尿

陽性

授乳第三日尿

陽性

授乳第一日尿

陽性

授乳第二日尿

陽性

是レニヨリテ、授乳セル嬰兒ノ尿ニハ、ニンゼリンヲ分解スル破壊酵素ヲ證明ス。

サテ以上ノ結果ヲ案ズルニ、下ノ結論ニ到達ス。

即チ妊娠セル母體若クハ褥婦ノ血中ニ存スル胎盤破壊酵素ハ、其ノ乳汁ニ移行シ、次デ授乳兒ノ腸管ヨリ兒ノ血中ニ入り、遂ニ兒尿中ニ出現スルモノナリ。

此ノ結果ハ非常ナル興味ヲ余ニ與ヘ、余ハ斯クシテ難ナク其ノ第一壘ヲ突破シ得タルヲ以テ、直チニ勇ヲ鼓シテ第二線ノ攻撃ヲ開始セリ。

即チ余ハ直チニ妊娠以外ノ破壊酵素ニ就テ同一實驗ヲ重ネタリ。

其ノ第一着歩トシテ、肺病ニ罹レル母體ヨリ生レタル嬰兒ノ尿ニ就テ、其ノ未授乳時ト授乳時トヲ比較研究セリ。

試験ノ方法ハ同ジク濾過法ニシテ、余ガ肺病診斷用基體ブルゼリン Pulberin ヲ用ヒ検査セリ。

其結果下ノ如シ。



肺病母ノ未授乳兒尿検査成績

生後第一日尿

陰性

生後第四日尿

陰性

生後第三日尿

陰性

是レニヨリテ肺病母ノ生ミタル嬰兒ニシテ未タ其ノ母乳ヲ吞マセザレバ、其ノ兒尿ハ**フルゼリン**ヲ分解セズ。

依リテ尙ホ引キ續キ尿検査ヲ進メ、遂ニ授乳スルニ至リテ、前同様ニ脱脂綿ヲ以テ採尿シ、之レニヨリテ同ジク**フルゼリン**ヲ以テ前回試験ト比較検査セリ。

其ノ結果下ノ如シ。

肺病母ノ授乳兒尿検査成績

授乳第一日尿

陽性

授乳第二日尿

陽性

授乳第五日尿

陽性

是レニヨリテ一度肺病母乳ヲ吞マセタル嬰兒ノ尿ハ**フルゼリン**ヲ分解ス。

余ハ之レニ勇ヲ増シテ尙興味アル實驗ヲ加ヘタリ。

即チ大正三年ノ當地大火ニ當リ、宛モ脛骨ノ骨髓炎ニ罹リ居リタル妊娠第八月ノ某婦人ガ、急遽ニ起リタル陳痛ノ結果、當函館病院分娩室ニ於テ一兒ヲ分娩セルガ、余ハ該嬰兒ノ尿ニ就テ、余ガ骨疾診斷用基體**ヲツセリン**ヲ以テ濾過法試験ヲ施セリ。

其ノ成績下ノ如シ

骨疾母ノ未授乳兒尿ノ検査成績

生後第一日尿

陰性

生後第二日尿

陰性

生後第三日尿

陰性

是レニヨリテ骨疾母乳ヲ吞マセザル嬰兒ノ尿ハ**ヲツセリン**ヲ分解セズ。

該嬰兒ハ第四日目に死亡セルヲ以テ母乳ヲ吞ムニ至ラザリケレバ、授乳後ノ尿ニ就テノ比較検査スルヲ得ザリキ。

以上各種ノ實驗ハ、余ガ尿診斷ニ向ツテ一新生面ヲ開拓セルモノナリ。而シテ乳汁ニ出現スル破壊酵素ノ運命ヲ釋ヌルニ感興頗ル大ナリ、余ヲシ



テ更ラニ妊娠酵素ノ行方ヲ趁ハシメヨ、今母乳ヲ傳ハリテ體外ニ出ヅル妊  
 娠酵素即チ胎盤細胞破壊酵素ハ授乳セラレタル嬰兒ノ口中ヨリ腸管ニ至  
 リ、營養物ト共ニ腸壁ヨリ吸收セラレテ乳兒ノ血中ニ現ハレ、次デ其ノ腎臟  
 ヲ通過シ遂ニ兒ノ尿中ニ證明セラレ、此ノ故ヲ以テ未授乳兒ノ尿ニハ該破  
 壞酵素ヲ證明セザレドモ、授乳兒尿ニハ歴然トシテ證明セラレ、  
 而シテ此ノ檢索方法ニ供セル尿ハ實ニ脫脂綿或ハ俗稱おしめ、即チ襪襪ニ  
 浸潤セラレタルモノニテ足レリ、余ハ此ノ簡便ナル尿攝取法ヲ厚利用發シ  
 テ、更ラニ次項ノ重要ナル應用ニ出デントス、何ゾヤ、曰ク嬰兒疾患ノ尿診斷  
 是レナリ。

蓋シ吾人ガ嬰兒疾患ヲ診スルヤ、或ル意味ニ於テ實ニ獸醫ト等シカルベシ、  
 彼レ言ハズ、彼レ語ラズ、此ノ間ニ處シテ百「プロセント」ノ確的ナル臨牀的診  
 斷ニ出ヅルコトハ難事ニシテ、實ニ又不可能事タリ。

余ハ此ノ際余ガ尿診斷ヲ應用スルコトノ尤モ妙ナルヲ感得ス、嬰兒ノ尿ヲ  
 完全ニ採取スルコト或ハ難事ナルベケレドモ、既述ノ如ク尿ニ浸潤セル脫  
 脂綿或ハ襪襪ヲ以テ足レリトセバ、是レ尤モ適當ナル天與ノ嬰兒診斷法ナ  
 リト云フベキナリ、但シ此ノ際尤モ注意セザルベカラザルコトハ、豫備試驗  
 トシテ母乳或ハ母尿検査ニアリトス、若シ豫メ母乳ヲ檢シテ、母乳ガ決シテ  
 腦ヲ分解セザルトキ、若シクハ毫モ胃腸ヲ分解セザルトキニ當リテ、實ニ嬰  
 兒ノ尿ガ是等ヲ分解スルニ於テハ、該嬰兒ハ即チ腦若シクハ腸ニ疾患アル  
 コトヲ斷定スベキモノナリ。

診斷用品

一、各種診斷基體

一、血炭

一、パンブロール

一、診斷具

診斷方法

診斷方法トシテハ濾過法、濃縮法或ハ定量的方法ヲ可トス、但シ定量的方法  
 ヲ行ハントスル時ハ、前記診斷用品ノ外ニ化學天秤ヲ要ス。



## 食物ノ尿診斷

食物ノ尿診斷ハ最モ興味アル事實ナリ、衛生上頗ル重大事タルノミナラズ、疾病診斷上ニ於ケル樞要事項ノ一トシテ多大ノ注意ヲ要求ス、余ハ曩ニ大正四年四月十八日東京醫學會總會ニ於テ其ノ一汎ヲ公ニセリ。

原理

今マ説明ニ先チテ、聊カ其ノ原理ニ溯ラントス。抑モ破壊酵素ハ凡テノ細胞ニ共存スルモノニシテ、動物種類ニ關セズ、苟モ其ノ組織ノ一片中ニハ、常ニ多量ノ當該破壊酵素ヲ含有スルモノトス、故ニ今マ該組織片ハ食膳ニ横ハルト、口中ニ入ルト、胃ニ至ルト、將タ腸ヲ迎ルトニ關セズ、常ニ多量ノ自家破壊酵素ヲ該經路中ニ發散セシムベク、而シテ發散セラレタル此レ等破壊酵素ハ其ノ透析性ヲ發揮ンテ、消化管ト稱フル動物膜ヲ通過シ血中ニ侵入シ、奔流轉々遂ニ腎臟ト呼ベル動物膜ヲ通過シテ膀胱ニ出デ、放尿中ニ出現スルモノトス。

然ラバ、即チ吾人ハ某食物ヲ攝取シタル人ノ尿ヲ採リテ、既知食物基體ニ對スル分解作用ヲ檢スルトキハ、甚ダ明カニ其ノ人ガ何ヲ喰セシカラ判斷スルコトヲ得ベシ、尙ホ分リ易ク之レヲ説明スレバ、今マ米カ、肉カ、牛乳カ、鶏卵カヲ攝取シタランヲ知ラントスル時ニ、其ノ人ノ尿ヲ取リテ米基體及ビ肉基體等夫々ニ對スル破壊作用ヲ檢スレバ足レリ、若シ米基體陽性ナレバ、該人ハ米食セルモノナルベク、肉基體陽性ナレバ、肉食セルモノナリ、又米肉共ニ陽性ナレバ即チ兩食ヲ混用セルコトヲ察知スルニ足ル。

然リ而シテ食物ナルモノヲ概觀スルニ、大約之レヲ二種類ニ分ツコトヲ得ベシ、曰ク常食ナリ、曰ク臨時食ナリ、今マ此ノ二種食物ニ就テ、其ノ酵素出現量ヲ調査スルニ非常ナル懸隔アリ、常食ニ於テハ尿中當該破壊酵素ノ出現量頗ル多量ナルニ反シ、臨時食物ヨリ來ル當該破壊酵素ノ出現ハ少量ナリトス、是レヲ以テ吾人ガ食物ノ尿診斷ヲ行ハントスル時ハ、此ノ點ニ留意セザルベカラズ、何トナレバ酵素ノ多寡ニヨリテ、反應時間ノ長短ヲ加減セザルベカラザレバナリ、蓋シ破壊ノ速度ハ酵素量ニ比例スルコト既ニ總論ニ於テ明說セリ、然レドモ實際上ハ食物ノ尿診斷ヲ要スル場合ガ、多ク臨時食ヲ取リタル場合ニ、果シテ其レガ何ナリシヤヲ決スルニアルヲ以テ、サマデ



心配スルニ及バザルモノトス、蓋シ常食ハ日常ヨリ分リ居レバナリ。  
 今順序上先ヅ常食ノ場合ヲ考察スルニ、常食ハ各國人ニヨリテ非常ノ差アルコト既ニ人ノ知ルトコロタリ、日本人ノ米食ヲ主トスル如ク、西洋人ハ肉食ヲ主トシ、日本人ノ魚食ヲ取ルガ如ク、西洋人ハ牛乳類ヲ攝取ス、此ノ故ニ日本人ノ尿中ニハ米基體破壞酵素ノ異常ニ多量ヲ出現セシメ、西洋人ノ尿中ニハ乳基體破壞酵素ノ出現甚ダ多量ナリ、蓋シ乳汁ノ如キ分泌液 Secret 〇ハ動搖性無膜細胞體ト見做スベシ、今マ各國人ニ對スル常食ヲ試験スルニ濾過法ニヨリ四時間ニシテ反應出現スルヲ見ル、然レドモ臨時食ヲ檢スルニ、同ジク濾過法ヲ以テスレバ、正規ノ如ク八時間反應ヲ以テ好適トナス、此ノ如ク常食ト臨時食トニヨリテ、其ノ反應時間ニ差ヲ生ズル所以ハ、前述ニヨリテ甚ダ明瞭ナルベシ。

診斷用品

- 一、各種食物基體
- 一、血炭
- 一、パンプロール

一、診斷具

診斷方法

食物尿診斷ノ方法トシテハ、余ガ示セル凡テノ方法ニヨリテ成就ス、而シテ就中可ナルハ濾過法ナリ、但シ常食物ニテハ反應時間ヲ短縮シテ四時間トナス。

基體ハ凡テ一回約〇・〇五瓦ヲ用フベシ。

診斷例示

食物尿診斷ニ關スル診斷ノ一二ヲ例示スベシ。

- |     |     |    |
|-----|-----|----|
| 甲者尿 | 米基體 | 陽性 |
|     | 乳基體 | 陰性 |
| 乙者尿 | 肉基體 | 陽性 |
|     | 米基體 | 陰性 |
- 即チ甲ハ米食ヲ採リシヲ知ル。



即チ乙ハ肉類ヲ採取シタルコトヲ知ル。

丙者尿

乳基體

陽性

卵黃基體

陰性

即チ丙ハ牛乳或ハ乳製品ヲ攝リシヲ知ル。

丁者尿

卵黃基體

陽性

乳基體

陰性

即チ丁ハ鶏卵或ハ卵黃製品ヲ食セシコトヲ證ス。

此ノ如クシテ食物ヲ診斷シ得ベシ、而シテ既知基體ノ多ケレバ多キ程検査ニ便利ナリ、乳基體ニハ凝固蛋白及ビ「カゼイン」ヲ含有ス。

診斷注意

第一 若シ検査者ガ筋肉病或ハ筋肉損傷ヲ患ヒ居ル時ハ、筋肉破壊酵素ハ自ラ尿中ニ出現スベキヲ以テ、此ノ際ハ肉基體ノ反應ヲ以テ直チニ食物ヲトスベカラズ、骨基體ニ於テモ同一理ナリ。

逆進的乳酵素

カ、ル際ニハ末項説明ノ時差利用法ヲ應用スベシ。

第二 肉汁、肉越幾斯等ハ凡テ肉食ト同意味ヲ有ス。

第三 米煎粥、餅等ハ凡テ米食ト同意味ヲ呈ス。

第四 乳製品及ビ牛乳入食物ハ凡テ牛乳ト同意味ヲ有ス。

第五 妊婦尿ニハ乳線ヨリ逆進的ニ乳汁破壊酵素ヲ出現ス、故ニ妊婦ニシ

テ牛乳ヲ常用スル時ハ、其ノ尿中ノ乳基體破壊酵素ハ増量シ、從ツテ反應時間ハ短縮ス、即チ濾過法ニヨリテ第一次分解ハ二時間ニヨリテ檢スベク、第二次分解ハ六時間ニヨリテ檢スベシ。

但シ乳基體ハ妊娠診斷ニハ好適セス、蓋シ産後長期間反應シ且ツ授乳婦、妊、牛、妊、及乳房切斷者ニ對シテハ無能タレバナリ。

第六 「カステーラ」及ビ玉子料理ハ凡テ鶏卵ト同意味ヲ有ス。

第七 常食ノ時ハ濾過法ニヨリ四時間反應ニヨリテ決シ、臨時食ノ時ハ正規ノ如ク八時間反應トス。

第八 尿ノ新舊ヲ論ゼズ。

各種食物ニヨル酵素量



各種常食中余ハ米食検査及ビ乳食検査ニ就テ頗ル興味アル事實ヲ得タリ  
 即チ米食ハ吾人日本人ノ常食トスル所ナルヲ以テ、一人ノ毎日取ル量ハ意  
 外ニ多量ナルモノナリ、一舉ニシテ十杯ヲ喫スル豪傑ハイザ知ラズ、先ヅ平  
 均三杯ト見做シ、一日九杯ノ飯ガ消化管内ニ發散スル破壊酵素ノ量ハ驚ク  
 ベキ大量ニシテ、從テ彼等ガ血中ニ潛行シテ尿中ニ出ヅルト雖モ、其ノ量ノ  
 尋常ナラザルハ勿論ナリ、故ニ吾人ガ自ラ尿ヲ取リテ、米基體ニ對スル分解  
 作用ヲ檢セントスル時ニハ、最モ此ノ點ニ留意スベキコト已述ノ如シ。  
 換言スレバ吾人日本人ノ尿中ニハ、米基體破壊酵素ノ頗ル多量ヲ含ムヲ以  
 テ、之レヲ検査スルニ當リ反應時間ヲ早メザルベカラズ、今左ニ其ノ關係ヲ  
 言ハンニ、

濾過法ニヨリテハ四時間ヲ可トス。

即チ吾人ハ自ラノ尿五瓦ヲ以テ濾過法ヲ行ヒ、三回濾過ニヨリテ成功シタ  
 ル濾液半量ニ米基體〇〇五瓦ヲ加ヘ、四時間ニシテ法ノ如ク**パンブロー**ル  
 反應ヲ試ムル時ハ陽性ヲ見ル。  
 然レドモ若シ通常ノ如ク、八時間檢色ヲ試ミナバ陰性トナル、是レ實ニ酵素

量ノ多キニ過グルガ爲メナリ、乳製品常食者タル西洋人ノ乳基體反應時間  
 モ亦四時間トス、常食廢止後二十四日間ハ、尿中ニ當該破壊酵素ヲ出現セシ  
 ムルコトアリ。  
 次ニ臨時食ノ反應時間ヲ云ハンニ、今牛乳及乳製品不用者ガ偶々牛乳一合  
 ヲ喫シタル場合、又ハ偶々「ミルク」二茶匙ヲ取リタル場合、或ハ鶏卵廢用者ガ  
 偶々鶏卵一箇ヲ食シタル如キ場合ノ尿反應ハ、何レモ濾過法ニテ正規ノ如  
 ク八時間反應ヲ可トス。

而シテ此レ等ノ各場合ニ於テ何日間尿中ニ破壊酵素ヲ出スヤヲ調査セル  
 ニ左ノ如シ。

- |          |         |
|----------|---------|
| 牛乳一合     | 三日間     |
| 「ミルク」二茶匙 | 二日間     |
| 鶏卵一箇     | 三日間     |
| 刺身一人前    | 三日乃至四日間 |
| 牛肉一人前    | 四日乃至五日間 |

此レ等ノ事實ハ實際上ノ各點ニ於テ利益ヲ與フルコト多シ。



余ハ開腹術後二十四日間全ク肉食セザリシ患者ノ尿ニ就テ、先ヅ肉基體ニ對スル反應ヲ檢セシニ陰性ナリキ、依リテ是レニ鮮魚ノ刺身ヲ勸メ、翌朝ノ尿ヲ採リテ、濾過法ニヨリ検査セルニ、肉基體陽性トナレリ。  
米反應ニツキ余及ビ助手吉岡ノ尿ヲ濾過法ヲ以テ検査セルニ左ノ如シ。

一、木内尿

四時間反應

陽性

同

五時間反應

陽性(強)

同

六時間反應

陽性

一、吉岡尿

四時間反應

陽性(強)

同

五時間反應

陽性

同

六時間反應

陰性

是レニヨリテ見ルニ、四時間ニシテ兩人尿トモ米基體ニ對シ陽性ニ出現シ吉岡尿ハ四時間ニ於テ最強ナリ、蓋シ吉岡ハ余ニ比シテ稍々豪傑タルガ爲メナリ。

尙ホ西洋人ノ尿ニ就キ、乳基體ニ對スル分解作用ヲ検査セル結果左ノ如シ、

西洋人ハ乳製品ヲ常食トスルモノナリ。

日本人ニシテ牛乳ヲ久シク連用セルモノニ就テモ検査セリ。

一、西洋男子尿

四時間反應

陽性(強)

同

五時間反應

陽性

同

六時間反應

陰性

一、西洋婦人尿

四時間反應

陽性(強)

同

五時間反應

陽性

同

六時間反應

陰性

一、日本男子尿

四時間反應

陽性

同

五時間反應

陽性(強)

同

六時間反應

陽性

一、日本婦人尿

四時間反應

陽性(強)

同

五時間反應

陽性

同

六時間反應

陰性

次ニ乳兒尿ニ就キ乳基體ニ對スル分解作用ヲ検査スルニ左ノ如シ。



一、乳兒一歲 四時間 陽性

一、乳兒二歲 四時間 陽性

次ニ毎日肉食或ハ魚食ヲ取ル人々ノ尿ニ就キテ、肉基體ニ對スル破壞作用ヲ検査セルニ左ノ如シ。

一、魚食日本人尿 四時間 陽性(強)

同 五時間 陽性

同 六時間 陰性

一、肉食西洋人尿 四時間 陽性(強)

同 五時間 陽性

同 六時間 陰性

次ニ鶏卵各一箇ヲ二人ノ助手ニ飲用セシメタル卵黃基體ニ對スル尿反應ヲ連日實驗セルニ左ノ如シ、但シ飲用前ノ反應ハ兩人トモ陰性ナリ。

一、吉岡尿 飲用前 陰性

第一日 陽性(七時、八時)

第二日 陽性(八時、九時)

一、萩原尿

第三日 陽性(九時、十時)

第四日 陰性(七、八、九、十、十一、十二時)

飲用前 陰性

第一日 陽性(七時、八時)

第二日 陽性(八時、九時)

第三日 陽性(九時、十時)

第四日 陰性(七、八、九、十、十一、十二時)

是レニヨリテ兩人トモ全ク一致セル成績ヲ示シ、共ニ鶏卵一箇飲用後ニ於テハ、其ノ尿中ニ卵黃基體ニ對スル破壞酵素ノ出現ヲ證シ、三日間ニ亘リテ反應スルコトヲ見ル。

又タ蒸餾水ニヨル二〇%卵黃越幾斯五立仙ヲ取リテ、濾過法ニヨリテ検査スルニ、卵黃基體ニ對スル分解作用ヲ證スルコト一般ノ如シ、蓋シ卵黃ハ卵細胞中ノ變態細胞體ニシテ、受胎鶏卵ニテモ不受胎卵ニテモ同質ニシテ含有酵素モマタ同様ナリ。

牛乳飲用ト妊娠尿診斷



牛乳及ビ乳製品攝取ハ、上述ノ如ク食物尿診斷上甚ダ興味ヲ覺ヘシムル所ナルガ、余ハ更ラニ牛乳飲用ガ他ニ多大ノ意味ヲ與ヘツ、アルヲ以テ、茲ニ別項トシテ聊カ論述セントスルモノナリ。

即チ牛乳飲用ガ妊娠診斷ニ對スル影響、及ビ其ノ注意トヲ審カニセントス。此ノ件ニ關シテハ既ニ總論篇ニ於テ概論セリ、蓋シ牛乳中ニハ乳汁破壞酵素ノ外ニ、妊娠酵素ヲ含有スルヲ以テナリ、已述ノ如ク牛乳ハ多ク妊娠中ノ乳牛ヨリ搾取セルモノニシテ、偶々不妊牛ヨリ搾取セルモノアリト雖モ、市場ニ出ヅルモノハ凡テ是レ等ノ合併セルモノニシテ、所謂混乳ト稱スルモノナルヲ以テ、從ツテ吾人が日常攝取スル牛乳中ニハ、凡テ妊娠酵素ヲ含有ス、故ニ若シ吾人が牛乳ヲ飲用スル時ハ、其ノ中ニ寄寓セル妊娠酵素ハ乳汁破壞酵素ト相共ニ、飲用者ノ胃腸膜ヲ滲透シテ血中ニ入り、腎臟膜ヲ通過シテ尿中ニ出現スルモノナリ、此ノ理由ヲ以テ、今マ飲用者ノ尿中ニハ此ノ兩種破壞酵素ヲ見ルベク、吾人ハ依リテ以テ飲用者ノ尿ヲ檢シ、乳食反應ノ外ニ妊娠反應ノ陽性ニ遭遇スベシ。

而シテ飲用者ニ出ヅル妊娠反應ハ、吾人が真正ノ妊娠診斷上非常ナル迷惑

ヲ蒙ルムル一點タリ、曩ニ人妊尿診斷ノ條下注意事項ノ一トシテ、所謂牛乳反應トシテ警シメタル所ナリ、當時言明セル如ク牛乳反應トシテ尿中ニ表ハル、妊娠酵素ハ、廢乳後二十五日目以後ノ尿中ニハ絶滅スルヲ以テ、吾人ハ其ノ時日ヲ定メ探尿シテ、以テ妊娠診斷ニ成就スルモノナリ。

然レドモ西洋人ノ如キ乳製品ヲ常用スル人々ニアリテハ、廢乳二十四日間ニ亘ルコトハ到底不可能ニ屬スベシ、然ラバ吾人ハ西洋人ニ對シテ妊娠診斷ハ殆ド絶望タルベキカ、曰ク否。

## 乳食者三様

余ハ此ノ乳食者ノ妊娠診斷ノ成功ヲ説カントスルニ先チ、實驗上乳食者ヲ三様ニ分ツベシ、即チ持續乳食者、臨時乳食者及ビ疑問乳食者是レナリ、持續的乳食者ハ牛乳或ハ乳製品ヲ常用シツ、アル者ニシテ一般ニ大量乳食者タリ、而シテ臨時乳食者ハ持續的ナラザルモノヲ總稱シ、一般ニ少量乳食者タリ、尙ホ疑問乳食者トハ讀ンデ字ノ如ク判然セザル者ヲ指ス。

普通ノ場合ニ於テハ、持續乳食者ト臨時乳食者トヲ比較スルニ、實驗上其ノ酵素量ノ關係常ニ著シキ懸隔ヲ示シツ、アリ、而シテ各持續乳食者相互間ハ其ノ乳食攝取量ガ多少差アルコト勿論ナルベキモ、毎日尿中出現酵素量



ニ於テハ常ニ大同小異ナリ、且ツ各臨時乳食者相互間ノ尿中出現酵素量モ亦大同小異ニシテ、呈色反應時間ヲ左右スベキ程度ノ差ヲ示スコト甚ダ稀レナリ、是レ等ノ實驗的事實ハ、食物ニ關係ヲ有スル尿診斷上、吾人ガ大ニ乗ズベキ點ナリトス。

牛乳中各種破壞酵素ノ比較

因ニ乳食尿中ニ出ヅル乳基體破壞酵素ト、ニンゼリン破壞酵素トノ比ヲ非妊者ニ就テ測定スルニ、後者ハ前者ヨリ稍少量ナリ、從テ反應時間モ稍延長ス、即チ持續乳食非妊婦ノ尿ハ、濾過法ニヨリ五時間ヲ以テニンゼリン反應ヲ現ハスモノナリ、是レ蓋シ前者ハ乳汁ヲ以テ本家本元トナシ、後者ハ即チ乳汁中ノ流寓者タルニ過ギザレバナリ、試ミニ乳汁酵素ト妊娠酵素及ビ性別酵素トノ破壞單位ヲ、市中販賣牛乳一合飲用後第一日ノ男尿ニ就テ測定スルニ左ノ如シ。

乳汁酵素	六 M
妊娠酵素	四 M
男胎酵素	四 M
女胎酵素	四 M

即チ乳汁酵素ハ最も多量ニ出現シ、妊娠酵素及ビ性別酵素ハ稍少量ナリ、但シ男胎酵素ト女胎酵素ハ各同量ニ出現シ、妊娠酵素ト等量ナリ。

持續乳食者ノ妊娠診斷

持續乳食者ノ妊娠診斷

先ヅ具體的方法ヲ云ハンニ、通常ノ如ク濾過法ヲ行ヒ、規定ノ如ク三回濾過八時間反應ニヨリテ、ニンゼリン陽性或ハ陰性ヲ確メテ決スベシ、蓋シ茲ニ至ル理由ハ興味深シ、以下少シク其ノ説明ニ及バントス。

妊娠セザル西洋人及ビ持續的乳食者ハ、常ニ多量ノ妊娠酵素ヲ其ノ尿中ニ放出スルモノナリ、其ノ割合ハ前述ノ如ク、濾過法ニヨリ五時間ヲ以テ第一次最強反應トナスノ程度ニアリ、然ルニ今マ是レ等ノ人々ニシテ妊娠センカ、胎盤ヨリ發スル妊娠酵素ガ之レニ合併セルヲ以テ、急ニ其ノ量ヲ増加シ其レヲ濾過法ニヨリテ檢スルニ、三時間ヲ以テ反應時間タラシムルニ至ルモノナリ。

此ノ如ク西洋妊婦或ハ乳食常用妊婦ハ、濾過法ニヨリ三時間ニシテ第一次分解ノ結果ニンゼリン陽性ヲ呈ス、而シテ其ノ第二次分解時ハ實驗的八時間ニ相當シ、宛モ乳食セザル妊婦ノ濾過法第一次反應時間ニ一致スルモノ



ナリ、然レドモ西洋不妊婦及ビ持續乳食不妊婦ニヨリテハ、第二次反應ハ八時間ニ來ラズ、是レヲ以テ西洋人ト雖モ妊娠尿診斷ヲ濾過法ニヨリテ成就スルモノトス。

而シテ此ノ如ク酵素量ノ差ニ基ケル反應時間ノ差 Plasen unterschied ヲ利用シテ診斷ノ快舉ニ出ヅルコトヲ稱シテ、時差利用法 Plasen-Benutzung ト云フ、即チ持續乳食妊婦ノ尿診斷ハ、左ノ如ク簡單ニ形成ス曰ク、  
濾過法ニヨリテ決ス。

此ノ試験ニシテ陽性ナル時ハ妊娠ナリ。

診斷例示

持續乳食妊婦ノ尿診斷ニ關スル濾過法ノ實例ノ二三ヲ示スベシ。

英國妊婦尿

八時間反應

ニンゼリン陽性

七時間反應

ニンゼリン陽性

露國妊婦尿

八時間反應

ニンゼリン陽性

七時間反應

ニンゼリン陽性

米國妊婦尿

八時間反應

ニンゼリン陽性

七時間反應

ニンゼリン陽性

濠洲妊婦尿

八時間反應

ニンゼリン陽性

七時間反應

ニンゼリン陽性

支那妊婦尿(持續乳食者)

八時間反應

ニンゼリン陽性

七時間反應

ニンゼリン陽性

日本妊婦尿(牛乳連用者)

八時間反應

ニンゼリン陽性

七時間反應

ニンゼリン陽性

是ニヨリテ持續乳食妊婦ノ尿中ニハ、外來内發妊娠酵素ノ合併ノ結果、妊娠酵素全量ハ増加シ、其ノ結果一般ノ如ク濾過法ニヨリ規定八時間ヲ以テニ



ンゼリン陽性ヲ呈ス、是レ即チ第二次反應ニシテ決定的ノモノナリ。  
但シ對照トシテ行ヘル各國非妊婦及ビ男子ノ持續乳食者ハ、總テ濾過法ニ  
ヨリ八時間陰性ナリ。

臨時乳食者ノ  
妊娠診斷

臨時乳食者ノ妊娠診斷

西洋妊婦ノ如キ持續乳食者ニシテ妊娠セルモノ、尿診斷ガ、上述ノ如ク時  
差利用法ニヨリテ成功セルニ因リ、余ハ一轉シテ日本人ニシテ偶々臨時乳  
食ヲナシタル妊婦ニ對スル妊娠尿診斷ヲナセシニ、是レ亦時差利用法ニヨ  
リテ成功スルニ至レリ、即チ是レニヨレバ吾人ハ強チ乳食後二十五日目ノ  
尿ヲ俟ツヲ要セズシテ、直チニ之レヲ診斷シ得ルモノトス。  
今試ミニ非妊者ガ牛乳一合或ハ「ミルク」ニ茶匙飲用後ノ妊娠酵素出現持續  
ヲ濾過法ニヨリ調査スルニ、

牛乳一合飲用後

第一日

陽性(八時)

第二日

陽性(八時)

第三日

陽性(八時、九時)

第四日

陰性(八、九、十、十一、十二時)

「ミルク」ニ茶匙飲用後

第一日

陽性(八時)

第二日

陽性(八時、九時)

第三日

陰性(八、九、十、十一、十二時)

即チ非妊者ト雖モ少量ニ乳食セルモノニハ、二三日間ハ尿中妊娠反應ヲ呈  
スルモノナルヲ知ル。

故ニ日本妊婦ニシテ、何等カノ機會ニヨリ約三四日目毎ニ牛乳一合位、若シ  
クハ「ミルク」ニ茶匙ニ略ボ相當スル乳製品ヲ攝取シタル時ハ、其ノ爲メニ尿  
中ニ出現スル妊娠酵素量ハ、上ノ外來妊娠酵素ト本來自體ヨリ湧出スル内  
發妊娠酵素ト合併スルヲ以テ、殆ド倍加スルモノナリ、從ツテ其ノ際五立仙  
尿中ノ酵素量ハ、宛モ濾過法ニヨリテ一〇立仙尿中ノ其レニ該當スベク、即  
チ吾人ハ此ノ際濾過法ヲバ五時間反應ニヨリテ決スレバ可ナリ。

即チ此ノ臨時乳食者ノ妊娠尿妊娠斷ハ左ノ如ク形成ス。

檢尿五立仙ヲ取リ濾過法ヲ行フ、但シニンゼリン反應時間ヲ五時間及八



時間ノ兩時トス、而シテ五時間反應陽性ナレバ、妊娠ナリ。六五六

診斷例示

臨時乳食者ニ對スル妊娠尿診斷ヲ例示スルコト左ノ如シ。

八時間反應                      ニンゼリン                      陰性

五時間反應                      ニンゼリン                      陽性

即チ偶々一合内外ノ牛乳或ハ之レニ該當スル乳製品ヲ攝取セル妊婦ノ尿ハ、濾過法ニヨリ規定八時間ニニンゼリン陰性ナレドモ、五時間ニ於テニンゼリン陽性ヲ呈ス。

疑問乳食者ノ妊娠診斷

疑問乳食者ノ妊娠診斷

少量乳食妊婦ニ就テハ上述セルガ、爰ニ實世間上吾人ノ屢々遭遇スルコトハ、其ノ人ノ教育程度ニヨリテ乳製品ノ何タルヲ辨ヘズ、醫師ノ問ニ對シ唯ダ無責任ノ答ヲナスモノアリ、又ハ其ノ注意力ノ程度ニヨリテ、其ノ云フ所ガ甚ダ信賴ス可ラザルコトアリ、例之ハ牛乳、ミルク等ハ大嫌ヒナリト主張スル婦人ニシテ、往々他家ヲ訪問シタル際珈琲或ハ紅茶ヲ喫スルアリ、爾カモ此等ノ中ニ、ミルク類ノ入レアルヲ更ラニ氣付カザルガ如ク、或ハ、

「付ケタル燒キ」パンヲ食スルニ係ハラズ、自分ハ乳臭キモノハ生來大嫌ナレバ、決シテ牛乳類ヲ飲食セシコトアラズト頑張ルガ如シ、又ハ、ビスケットノ半斤モ立トコロニ平ゲントスル婦人ニシテ、爾カモ乳製品ヲ罵倒スルアリ、世ノ中ハ中々ニ人ノ返事ダケニ信憑シ難キゾ是非モナキ。

是ニ於テカ吾人診斷者ハ、斯カル疑問乳食者ニ對シテ施スベキ適當ノ診斷法ヲ案出セザルベカラズ、而シテ此ノ要求ガ同ジク時差利用法ノ應用ニヨリテ充サレタルヲ喜ブ。

即チ若シ妊婦ニシテ偶々乳食シタランニハ、出現スル破壞酵素量ハ本來ノ其レニ倍スルヲ以テ、濾過法ニヨリ五時間反應ヲ好適トシ、規定八時間反應ハ却テニンゼリン陰性トナル、然レドモ非妊婦ニシテ臨時乳食シタル時ハ八時間ニシテ反應出現ス、サレド此ノ際ハセキシシ及バラセキシシ反應トモニ八時間反應ヲ呈スベキヲ以テ明カニ鑑別セラル。

今マ其ノ方法ヲ簡單ニ形成スレバ、  
濾過法ヲ行ヒ、規定八時間ヲ以テニンゼリン反應ノ外ニ、セキシシ及バラセキシシ反應ヲ檢シ、其ノ結果タル下述ノ四場合ニ應ジテ、夫々妊娠否ヲ決



定スベシ。

第一 ニンゼリン陽性ニシテセキシシ及バラセキシシノ何レカーガ陽性ナレバ妊娠ナリ。

且ツ妊婦ハ此ノ際非乳食者ナルカ、或ハ持續乳食者タルヲ知ル。

第二 ニンゼリン陰性ナレドモ、セキシシ及バラセキシシノ何レカーガ陽性トナリテ、且ツ五時間反應ニンゼリン陽性ナレバ妊娠ナリ。

且ツ妊婦ハ此ノ際臨時乳食者タルヲ知ル。

第三 ニンゼリン、セキシシ、バラセキシシ三者共ニ陽性ナレバ不妊ナリ。且ツ婦人ハ此ノ際臨時乳食者タルヲ知ル。

第四 ニンゼリン、セキシシ、バラセキシシ三者共ニ陰性ナレバ不妊ナリ。且ツ婦人ハ此ノ際持續乳食者タルヲ知ル。

診斷例示

疑問乳食者妊娠診斷ニ就テ例ヲ示サン。

一、乳食疑問婦人尿

八時間反應

ニンゼリン

陽性

八時間反應

バラセキシシ

陰性

右診斷

妊娠(非乳食或ハ持續乳食)

一、乳食疑問婦人尿

八時間反應

ニンゼリン

陰性

八時間反應

セキシシ

陽性

八時間反應

バラセキシシ

陰性

五時間反應

ニンゼリン

陽性

右診斷

妊娠(臨時乳食者)

一、乳食疑問婦人尿

八時間反應

ニンゼリン

陽性

八時間反應

セキシシ

陽性

八時間反應

バラセキシシ

陽性

右診斷

不妊(臨時乳食者)

一、乳食疑問婦人尿



八時間反應	ニンゼリン	陰性
八時間反應	セキシシ	陰性
八時間反應	バラセキシシ	陰性

右診斷 不妊、持續乳食者

但シ最後ノ例ニ於テ五時間反應ヲ試ミナバ、三者共ニ陽性トナルベキハ明カナリ。

以上ハ總テ單胎妊娠ノ場合ニ就キテ説明セルモノニシテ、双胎以上ニアリテハ特別ノ場合ヲ生ズルコト自ラ類推セラルベシ。

此ノ如ク牛乳飲用ニ對シ、不得要領ナル答ヲナス婦人ニ對シテハ、三基體ヲ使用シテ検査スレバ、其ノ妊否ヲ決スルニ易シ。

尙ホ乳食疑問者ハ假令飲用シタリトスルモ、多クハ臨時的ニシテ少量ナリ。

### 牛乳飲用ト胎兒男女診斷

吾人ガ攝取スル牛乳即チ混乳ニハ、妊娠酵素ノ外ニ性別酵素ヲ含有ス、而シテ常ニ兩性ニ反應スル性別酵素ヲ有スルモノナリ、換言スレバセキシシ破

持續乳食妊婦胎性診斷

壞酵素トバラセキシシ破壞酵素ト有シ、且、兩種酵素量ハ殆同量ニ位ス。

是レニヨリ胎兒男女尿診斷ニ當リテモ、理想的ニハ乳食廢止後二十五日目

以後ノ検査ニ俟ツベキモノナレドモ、今マ前述ノ如ク時差利用法ヲ應用ス

レバ、乳食中ト雖モ之レヲ診斷スルニ難カラズ、今マ左ニ持續乳食者ト臨時

乳食者ニツキ別論スベシ。

### 持續乳食妊婦ノ胎性診斷

西洋妊婦又ハ持續的乳食妊婦ニハ、常ニ大量ノ兩種性別酵素ヲ出現セシム

ルモノニシテ、若シ胎兒ガ男性ナル時ハ、男胎酵素全量ハ非常ニ多クナルベ

シ、即チ外來ト内發トノ其レガ合併スルヲ以テ、從ツテ破壞速度ハ迅速トナ

リ、セキシシ反應時間ハ著シク短縮スベク、即チ三時間ヲ以テ檢色ニ適シ、從

ツテ其ノ第二次反應時ハ八時間トナル。

是レヲ以テ持續乳食妊婦ノ胎性診斷ハ容易ナリ、即チ

檢尿五瓦ヲ以テ通常ノ如ク濾過法ニヨリ、三回濾過八時間反應ヲ以テ決

診スベシ。

### 診斷例示



持續乳食妊婦ノ胎性診斷ニ關スル濾過法ノ數例ヲ示サン。

英國妊婦尿(女兒分娩)

八時間反應      セキシソ陰性

露國妊婦尿(男兒分娩)

八時間反應      セキシソ陽性

米國妊婦尿(男兒分娩)

八時間反應      セキシソ陽性

濠洲妊婦尿(女兒分娩)

八時間反應      セキシソ陰性

支那妊婦持續乳食者尿(女兒分娩)

八時間反應      セキシソ陰性

日本妊婦持續乳食者尿(男兒分娩)

八時間反應      セキシソ陽性

即チ持續乳食妊婦ノ胎兒性別ハ、單ニ濾過法ニヨリテ全ク普通ニセキシソ反應ヲ以テ決シ得ルヲ知ル、尙ホ第一次分解タル三時間反應モ同様ニ出現

スルコトヲ見ル、但シ五時間反應ハ逆ニ出現ス、其ノ理ハ次項ノ説明ヨリ類推スベシ。

臨時乳食妊婦胎性診斷

臨時乳食妊婦ノ胎性診斷

牛乳一合或ハ、ミルクニ茶匙若シクハ是レ等ニ該當スル乳製品ヲ、時々三四日毎ニ飲食シタル妊婦モ、亦其ノ後二十五日以後ノ檢尿ヲ理想トスレドモ、時差利用法ヲ應用スレバ、其ノ飲用時ニ於テ直チニ胎兒性別ヲ決定スルニ難カラズ。

逆反應

臨時乳食妊婦ノ尿中ニ出現スル兩種性別酵素ハ、何レモ濾過法ニヨリテ規定ノ八時間反應ニ好適スル分量ニアリ、故ニ今マ胎兒ガ男性ナリトセバ、外來ト内發トヲ合併シテセキシソ破壊酵素ハ倍加スルヲ以テ、濾過法ノ反應時間ハ短縮シ、丁度一〇立仙ヲ用ヒタル場合ト同ジク五時間トナル、是レ正反應タリ、然レドモ單ニ牛乳ヨリ來ルバラセキシソ反應ハ、依然八時間ニ出現スベシ、是レ虛像ニシテ胎兒ハ男性タルヲ知ル、斯ル虛像出現ヲ稱シテ逆反應 Gegenreaktion ト云フ。

是レヲ以テ臨時乳食妊婦ノ胎性診斷ハ下ノ如ク之ヲ形成ス、即チ



檢尿五立仙ヲ以テ通常ノ如ク濾過法ニヨリ五時間及八時間反應ヲ檢ス  
但シ八時間反應ハ逆反應ヲ呈ス即チセキシシ陽性ナレバ女性ニシテセ  
キシシ陰性ナレバ男性ナリ。

尙ホ此ノ際バラセキシシヲ併用スレバ更ニ妙ナリ。

診斷例示

臨時乳食妊婦ノ胎性診斷ヲ例示スルコト左ノ如シ。

日本妊婦臨時乳食者尿男兒分娩

八時間反應

セキシシ

陰性

五時間反應

セキシシ

陽性

日本妊婦臨時乳食者尿(女兒分娩)

八時間反應

セキシシ

陽性

五時間反應

セキシシ

陰性

是レニヨリテ偶々少量ニ乳食シタル妊婦尿ニヨル胎兒性別ハ濾過法ニヨ  
リテ反對ニ出現ス即チセキシシ陽性ノ時ハ反對ニ女性ナルヲ知ルベシ但  
シ五時間反應ヲ以テスレバ正反應ヲ出現ス。

疑問乳食妊婦ノ胎性診斷

乳食シタルカ否カ其ノ答ノ甚ダ不得要領ナル妊婦ニ對シテ吾人ハ困却ヲ  
感ズルコト屢々ナリ而カモ又變形乳製品ニ心付カズシテ恠巧ヲシキ明快  
ナル返答ヲ以テ乳食ヲ否認セラルニ至リテハ診斷者ノ迷惑蓋シ絶頂ニ  
達スベシ斯カル際ニハ誤診ヲ以テ正當トナスベク診斷者ハ崇高ナル科學  
ノ土臺ニ坐シテ悠悠自適歡樂シテ可ナリ。

然レドモ吾人ガ低クキ世間ニ生活スル以上サマデ四角四面ニ憤怒セズシ  
テ是レ等ノ場合ヲモ見破リツ確診ヲ與フルノ方法ヲ示スモ亦一ノ義務  
タルベシ。

サテ斯カル疑問乳食妊婦ニ對シ吾人ハ如何ニシテ胎兒男女ヲ決定セント  
スルカ、

曰ク時差利用法是レナリ。

今マ疑問乳食妊婦ニシテ實際非乳食者ナリトスレバ胎性診斷ハ平常ノ如  
クニシテ頗ル簡單ナレドモ若シ持續乳食者ナリシトスレバ第二次分解ガ  
濾過法ニテ八時間ニ相當スルヲ以テ同ジク平凡ナリ。



然レドモ妊婦ニシテ臨時乳食者タリシトスレバ、茲ニ多大ノ興味ヲ生ズ、即チ該條下ニ説明セシ如ク逆反應ヲ呈スルコト是レナリ、但シ五時間反應ハ正反應ニ出現ス。

依リテ茲ニ疑問乳食妊婦ノ胎性診斷ヲ總括シテ簡説スレバ、

濾過法ヲ行ヒ規定八時間ヲ以テセキシシノ外ニニンゼリン反應ヲ檢シ其ノ結果タル下述ノ四場合ニ應ジテ、夫々胎性ヲ決定スベシ。

第一 妊婦尿ニンゼリン陽性ニシテ、セキシシ陽性ナレバ胎兒ハ男性ナリ。

但シ妊婦ハ此ノ際非乳食者タルカ、或ハ持續乳食者タルヲ知ル。

第二 妊婦尿ニンゼリン陽性ニシテ、セキシシ陰性ナレバ胎兒ハ女性ナリ。

但シ妊婦ハ此ノ際非乳食者タルカ、或ハ持續乳食者タルヲ知ル。

第三 妊婦尿ニンゼリン陰性ナレバ、出デタルセキシシ反應ハ逆反應ナリ

即チセキシシ陰性ヲ呈セバ胎兒ハ男性ナリ。

但シ妊婦ハ此ノ際臨時乳食者タルヲ知ル。

第四 妊婦尿ニンゼリン陰性ナレバ、出テタルセキシシ反應ハ逆反應ナリ

即チセキシシ陽性ヲ呈セバ胎兒ハ女性ナリ。

但シ妊婦ハ此ノ際臨時乳食者タルヲ知ル。

診斷例示

疑問乳食妊婦ノ胎性診斷ニ關スル例ヲ左ニ示ス。

一、疑問乳食妊婦尿

八時間反應

ニンゼリン

陽性

八時間反應

セキシシ

陽性

右診斷

男性胎兒非乳食或ハ持續乳食者

一、疑問乳食妊婦尿

八時間反應

ニンゼリン

陽性

八時間反應

セキシシ

陰性

右診斷

女性胎兒非乳食或ハ持續乳食者

一、疑問乳食妊婦尿

八時間反應

ニンゼリン

陰性

八時間反應

セキシシ

陰性

五時間反應

ニンゼリン

陽性

五時間反應

セキシシ

陽性



右診斷 男性胎兒(臨時乳食者)  
一、疑問乳食妊婦尿

八時間反應	ニンゼリン	陰性
八時間反應	セキシシ	陽性
五時間反應	ニンゼリン	陽性
五時間反應	セキシシ	陰性

右診斷 女性胎兒(臨時乳食者)

但シ○持○續○乳○食○妊○婦○ニ○ア○リ○テ○モ○試○ミ○ニ○五○時○間○反○應○ヲ○檢○ス○レ○バ○逆○反○應○ヲ○呈○ス○  
何○ト○ナ○レ○バ○乳○食○ヨ○リ○來○ル○兩○種○性○別○酵○素○群○ノ○中○一○群○ハ○上○表○ノ○如○ク○內○發○酵○素○  
ト○合○シ○テ○八○時○間○反○應○ニ○ヨ○リ○何○レ○ト○モ○決○定○セ○シ○ム○ト○雖○モ○他○ノ○一○群○ハ○全○ク○外○  
來○酵○素○ノ○ミ○ニ○シ○テ○爾○カ○モ○持○續○乳○食○者○タ○ル○以○上○ハ○五○時○間○ニ○ヨ○リ○テ○反○應○ス○ベ○  
シ○併○シ○此○ノ○際○ノ○五○時○間○反○應○ハ○固○ヨ○リ○意○義○ア○ル○內○發○酵○素○ノ○發○動○ニ○ア○ラ○ズ○シ○  
テ○却○ツ○テ○正○反○對○ノ○モ○ノ○故○其○レ○ニ○ヨ○リ○テ○出○デ○タル○胎○性○反○應○ハ○逆○反○應○タ○ル○ヲ○  
知○ル○換○言○ス○レ○バ○持○續○乳○食○妊○婦○ニ○於○テ○五○時○間○反○應○セ○キ○シ○ン○陽○性○ナ○レ○バ○胎○兒○  
ハ○女○性○ナ○リ○

故ニ吾人ハ本來ヨリ云ヘバ、持續乳食妊婦ニモ八時間反應ト五時間反應ト  
ヲ兼用スベキヲ興味アリトスレドモ、實際ノ目的ニハ、單ニ八時間反應ニヨ  
リテ決シ得ベキヲ以テ、上記例ニ於テハ、複雑ヲ避ケテ之レヲ示サザル所以  
ナリ、尙ホ以上ハ總テ單胎妊娠ノ場合ニ就キ、濾過法ヲ以テ説明セルモノナ  
リ、故ニ双胎以上ノ妊娠ニアリテハ、其ノ胎性診斷ニ特別ノ場合ヲ生ズベク、**パ  
ラセキシシ**ノ應用ト相俟チテ、趣味ノ益々加ハルベキハ自ラ明カナリトス。

### 法醫學的尿診斷

尿診斷ガ吾人ニ與フル利益ハ益々其ノ範圍ヲ大ニシテ、茲ニ法醫學上重要  
ナル應用ニ出ヅルコトヲ得ルニ至レリ、余ガ診斷理想ノ一ニ曰ク、**診○斷○ハ○客  
觀○的○ナ○ラ○ザ○ル○ベ○カ○ラ○ズ○ト、**今ヤ法醫學的診斷ニ言及シテ殊ニ此ノ感ヲ深ウ  
ス、由來法醫學的診斷ハ絕對ニ公正ナラザルベカラズ、一人ノ然諾ヲ以テシ、  
一○人○ノ○反○言○ヲ○以○テ○シ○テ○敢○テ○嚴○格○ナ○ル○法○規○ノ○埒○ヲ○出○入○セ○シ○ム○ル○コ○ト○ハ、斷  
ジテ吾人ノ理想ニ非ルナリ、而シテ之レヲ萬人ノ目前ニ示スベキ屍體解剖



ノ如キハ、常ニ稍客觀的判斷ヲ期待シ得ベキモ、苟モ彼ノ腦疾患若シクハ精神病ニヨル犯罪ノ如キ、抑モマタ生體的診斷ニ出ヅベキモノニアリテハ、鑑定者ノ困難ハ更ニ大ナルモノアリ、而シテ妊娠及ビ墮胎ニ關スル犯罪ノ如キ、生命保險ニ關スル犯罪ノ如キ、抑モ又押收物件ノ檢索ニ於ケル等、之レヲ數ヘ來レバ生物學的智識ニ準據シテ、之レヲ客觀的ニ決診スルノ必要多クナルヲ覺ユ、余ガ茲ニ法醫學上尿診斷ヲ應用シテ之レニ資セントスルハ蓋シ公心ノ囁キナリ。

#### 診斷用品

- 一、各種診斷基體
- 一、血炭
- 一、パンブロール
- 一、診斷具
- 一、化學天秤

#### 診斷方法

余ガ示セル凡テノ方法ヲ臨機ニ適用スベシ。

即チ正シク尿ヲ提供セラレタル場合ニハ、濾過法若シクハ濃縮法等ニヨリテ決シ得ベキモ、不定倍ナル尿液ノ如キ、或ハ押收物ニ付着シタル尿ノ如キヲ鑑定セントスル時ハ、定量的方法ヲ取ルベシ。

#### 診斷適用

以下二三ノ適用ヲ數ヘテ了解ニ便ナラシメントス。

#### 生兒遺棄ニ關スル鑑定

生兒遺棄鑑定

茲ニ一褥婦偶々生兒遺棄ノ嫌疑アリトセンニ、吾人ハ單ニ其ノ婦人ノ遺棄自白ノミニ馮リテ之レヲ決スベキニ非ズ、何トナレバ該褥婦ノ生メル子ハ果シテ男性ナルヤ女性ナルヤヲ決セザルベカラザレバナリ、若シ然ラズンバ、容易ナラザル誤謬ニ陥ルコトナシトセズ、此ノ時ニ當リテ威力ヲ呈スルモノハ、胎兒男女尿診斷是レナリ。

吾人ハ宜シク褥婦ノ尿ヲ請求シ、其ノ成績ヲ生兒ノ性ト照合シ以テ事ヲ決スベシ、但シ産褥二十五日以後ノ尿ニテハ不都合ナルヲ以テ、嫌疑ノ當初ニ於テ其ノ尿ヲ押收スベキモノトス、或ハ又當時ノ血液附着物ヲ押收スルモ可ナリ。



提供セラレタル死胎ハ、母體內ニ於テ起リシヤ、母體外ニ起リシヤノ鑑定ハ甚ダ屢々吾人ノ命ゼラル、所ナリ。而シテ此ノ問題モ亦生物學的應用ニヨリテ、甚ダ便宜ヲ感ズルモノナリ、即チ胎兒生死尿診斷ノ活用是レナリ。今マ該兒ニシテ果シテ分娩後壓殺セラレシモノトスレバ、母尿ヲ檢シテ生死基體ニ對スル反應陰性ナルベキモ、既ニ母體內ニ於テ死亡セルモノトスレバ、生死基體陽性ニ反應スベシ、但シ該反應ハ產褥二十四日以内ノ母尿タラズンバアラズ、然レドモ其ノ當時ノ血液ニ染ミタル襠褌等ヲ押收スレバ之レヲ浸出シテ檢査スルコトヲ得。

嫌疑者ノ尿ヲ取リテ、**ニンゼリン**反應ノ有無ヲ檢スベシ、但シ完全墮胎ナレバ產褥二十四日以内ノ尿ニヨラザルベカラス。若シ尿採取期ヲ逸シタル時ハ、腰卷或ハ汗褌袴ヲ押收シ、是レ等ノ浸出液ニヨリテ定量的方法ニヨル妊娠診斷ヲ試ムベシ。

精神病的犯罪者ニ對シ、腦ニ異變アルヤ否ヤヲ鑑定スベキ場合ニハ、其ノ尿ヲ請求シテ腦基體ニ對スル破壞作用ヲ檢スベシ、若シ陽性ナレバ該犯人ハ腦病ヲ有スルコトヲ知ル。而シテ尙進ミ腦ノ如何ナル部分ニ異狀アルカラ決定セントセバ、疾病局所診斷ヲ利用スベシ、即チ腦ノ各部基體ヲ夫々使用シテ、之レニ對スル破壞作用ノ有無ヲ各個ニ檢査スベシ。

傷害ガ如何ナル程度ニ及ボセルカノ鑑定モ、亦吾人ガ屢々命ゼラル、トコロナリ、例之ハ打撲或ハ刀劊ガ筋肉ノ損傷ニ止マルヤ、又ハ進ンデ骨ヲ損セシヤ或ハ尙ホ内臟ヲ傷ケタルヤヲ知ラントスレバ、其ノ尿ヲ請求シテ是レ等各種基體ニ關スル破壞作用ノ有無ヲ、各種注意ノ下ニ檢査スベシ。尙ホ銃創ガ肺ヲ貫通セルヤ、或ハ單ニ皮下ニ様々ニ迂回シテ、何レニカ潛居スルヤヲ知ラントスル時、若シクハ頭部ニ對スル銃創ガ、腦質ニ達セルヤヲ決セントスルニ當リテ、吾人ハ同ジク當該基體ニ對スル夫々ノ破壞作用ヲ



検査シテ、以テ之レヲ決スルヲ得ベシ、但シ是レ等ノ際ニハ、傷害以前ノ被害者健康診断書ヲ要シ、若シクハ傷害以前ノ痺及ビ腰卷或ハ汗襦袢ヲ請求シテ、其ノ浸出液ノ検査ト對照スルヲ要ス。

腐敗組織鑑定

腐敗組織ノ鑑定

提供セラレタル腐敗汚穢ノ組織ガ、果シテ如何ナル組織ナルヤノ鑑定ハ、蓋シ組織診断ニ屬スレドモ、生物學的ニハ尿診断ト同意義ニ成立スルコト、既ニ總論篇ニ説明スルガ如クナルヲ以テ、爰ニ附記スル所以ナリ。

例之ハ見分ケノツカザル腐敗肉塊ガ、實ニ筋肉塊ナルヤ、腦髓ナルヤ、又ハ胎盤ナルヤヲ決定セントスル時ハ、余ガ既述セル組織診断ノ方法ニヨリ、夫々既知基體ニ對スル破壊作用ノ有無ニ徴シテ之レヲ知ルベシ。

### 綜合尿診断

上來説キ來リタル各般ノ尿診断ニヨリテ、吾人ハ各種臟器ノ病變セルヤ否ヤヲ速知スルノミナラズ、腫瘍及ビ傳染病ガ身體ヲ襲ヒツ、アルヤヲモ察

知スルヲ得ルモノニシテ、換言スレバ臟器診断ノミナラズ、腫瘍診断及細菌診断等ノ成功ヲモ享樂スルニ至レリ。

今マ臟器ハ箇所 Lokalisation ヲ意味シ、腫瘍及細菌ハ性質 Natur ヲ表示ス、今マ尿診断ハ此ノ兩個ノ應用ヲ遺憾ナク可能セシムルモノニシテ、之レヲ要スルニ、吾人ハ尿診断ニヨリテ疾病箇所ヲ診断スルト同時ニ、疾病性質ヲ決定スルコトヲ得タリ。

是ニ於テカ吾人ハ一方ニ箇所診断ヲ行ヒ、一方ニ性質診断ヲ施シ、此ノ兩箇ヲ綜合スル時ハ、一舉ニシテ何處 Wo 何病 Was ガアルカヲ決定スルコト宛モ彼ノ解析幾何學ニ於テ坐標ヲ定ムルガ如クナリ、此ノ如ク綜合的ニ疾病ヲ診断スル方策ヲ稱シテ、綜合尿診断 Kombinierte Urindiagnose ト云フ。

蓋シ箇所ハ之レヲ X 軸即チ横線上ニ決スベク、性質ハ之レヲ Y 軸即チ縦線上ニ定ムベシ、而シテ X Y 兩軸上ノ摸索ニシテ尿診断ニヨリ決定セラレンカ、坐標即チ綜合診断ハ立處ニ成就スベシ、之レヲ例ヘバ今 X 軸上肺病ヲ決シ、Y 軸上結核ヲ定メタランニハ、坐標ハ即チ肺結核ニアルコト最モ明瞭ニアラズヤ。



余ハ綜合尿診斷ノ創設以來、診斷學ト治療學トヲシテ倍々密接ナラシムルヲ得タリ、斯クテ余ガ理想的診斷學タル尿診斷ハ更ラニ一疊ヲ進ムルモノナリ。

而シテ一身體中ニ於ケル疾病ニシテ、其ノ箇所一ヶ所ニ其ノ性質一種ナル時ハ、直チニ綜合尿診斷ノ成功ヲ見ルベシ。

然レドモ又一身體中ニ於テ疾病箇所二ヶ所ニシテ、其ノ性質一種ナル時ハ二個臟器ガ同種疾病ニ侵サレ居ルコトヲ知ル。

若シ又一身體中ニ在リテ疾病箇所二ヶ所ニシテ、其ノ性質モ二種ナル時ハ其ノ好發臟器ニ從ツテ之レヲ分ツベシ、即チ胃ト骨トガ罹患シテ、癌ト結核トノ反應出デシトスレバ、胃癌ト「カリエス」トノ存スルヲ見當スベシ。

#### 診斷用品

一、各種診斷基體

一、血炭

一、パンブロール

一、診斷具

#### 診斷方法

綜合尿診斷ノ方法トシテハ、就中余ガ濾過法ヲ以テ便利ナリトス、蓋シ多數濾尿ヲ要スルヲ以テ、比較的手數ノカ、ラヌ方法ヲ取ルヲ可トスレバナリ。

#### 診斷例示

綜合尿診斷ノ應用ハ、即チ次條、疾病所在尿診斷是レナリ、從ツテ其ノ例示ハ次條中ニ記スベシ。

### 疾病所在尿診斷

疾病ノ診斷ハ、疾病ノ有無ヲ以テ足レリトセズ、其ノ病竈ガ何レノ臟器ニアルヤヲ突キ止メズンバ、治病上ノ方針ヲ決定シ難ク、未ダ吾人ガ要求ヲ満足セシムル能ハザルナリ。

吾人ハ尿診斷ニヨリテ癌腫ヲ決定シ得タリ、肉腫ヲ決定シ得タリ、然レドモ是レ等惡性腫瘍ガ、何レノ臟器ヲ侵セルヤヲ決定シ得ズンバ、手術ノ方針ヲ確立シ難キコト手術場ニ出入スルモノ、夙ニ感得スル所トス。



カンセリン反應陽性ナリ、曰ク癌腫ナリ、然レドモ胃癌ナルヤ肝癌ナルヤ、將  
 タ膀胱ナルヤヲ決定シ得ズンバ、誰レカ悠々トシテ刀ヲ執ルモノアラン、而  
 カモ茲ニ顧ミズシテ患者ヲシテ手術臺上ノ人タラシムルハ即チ暴虎馮河  
 ノミ彼ノ試驗的開腹術 Probe Laparotomie ノ如キ美名ノ下ニ隠レントスルハ、  
 斷ジテ吾人ノ理想ニ非ルナリ。

疾病ノ所在診斷 Lokalisationsdiagnose ハ此クテ其ノ要求ノ急ナルヲ覺ユ、而シ  
 テ余ハ當該患者ノ尿ヲ檢シテ其ノ所在ヲ決定シ得ルニ至レリ、其ノ梗概ハ  
 既ニ癌腫尿診斷條下ニ説述シ、且前條綜合尿診斷ニ説述シタルヲ以テ、本篇  
 ニ於テハ單ニ其ノ原理ヲ補シ、且診斷例示及ビ診斷注意等ニ就テ述ベント  
 ス。

抑モ腫瘍及ビ細菌病ニアリテハ、其ノ腫瘍細胞及ビ菌體ヨリ發散スル破壊  
 酵素ハ、血中ヲ經テ尿中ニ出現スルコト既ニ縷説セル所ニシテ、臟器病變ニ  
 際シテモ、其ノ臟器細胞ヨリ發散スル破壊酵素ガ、血中ヨリ腎臟ヲ通過シテ  
 尿ニ現ハルルヲ以テ、今茲ニ胃癌患者アリトスレバ、其ノ人ノ尿中ニハ胃基  
 體ガストミンヲ分解スル酵素ト、癌基體カンセリンヲ分解スル酵素トヲ出

現ス、故ニ吾人ハ此ノ兩基體ノ各ニ對スル破壊ノ陽性ヲ實證シテ、始メテ胃  
 癌ナルヲ診斷スルコトヲ得ルモノニシテ、又茲ニ肺結核患者アリトスルニ、  
 其ノ人ノ尿中ニハ肺細胞ヲ破壊スル酵素ト同時ニ、結核基體ヲ破壊スル酵  
 素トノ出現ヲ證明スベク、即チ肺結核尿ハ上述ト同理ニヨリ、肺基體ブルゼ  
 リント結核基體テベサミントヲ破壊スルモノナリ、故ニ此ノ兩基體ノ各ニ  
 對スル破壊作用ノ陽性ヲ知リテ、始メテ肺結核ナルコトヲ察知スベキコト  
 前號已説ノ如シ。

サレバ此ノ理ヲ實際上ニ應用シ、一ハ以テ疾病所在ノ物色法タルベク、一ハ  
 即チ疾病性質ノ探究法タルヲ得ルモノニシテ、前者ハ主トシテ外科的興味  
 ニ屬シ、後者ハ專テ内科的興味ニ資スルモノナリ、而シテ何レニシテモ其ノ  
 由來ハ同理ニシテ同方法タリ、本條ニ於テハ先ヅ豫メ性質診斷ヲナシタル  
 モノニ就キテ、其ノ所在診斷ヲ確ムル場合ヲ舉グルコト、セリ。

#### 診斷用品

##### 一、各種臟器基體

##### 一、血炭



一、パンブロール  
一、診断具

診断方法

余ガ尿診断方法中、就中此ノ際ハ濾過法ヲ以テ便トナス。

診断例示

内臓物色

所在診断ニ就テ一ニ例ヲ示サン、勿論外檢可能ナル箇所ハ敢テ所在診断ノ要ナキヲ以テ、茲ニハ單ニ内臓物色ノ例ヲ記スニ止メントス。

結核患者ノ検査

ブルゼリン

陽性

ラツゼリン

陰性

エンテリン

陰性

右所在診断 肺

癌腫患者ノ検査

ガストミン

陽性

ヘバゼリン

陰性

パンクレシン

陰性

コルゼリン

陰性

右所在診断 胃

以上二例示ニヨリ其ノ要領ヲ知ルコトヲ得ベシ。

診断注意

第一 對照管利用法ヲ應用スレバ、一舉ニシテ二本ノ試験ヲナシ得ルヲ以テ、此ノ際甚ダ有利ナリ。

第二 陰性管利用法ヲモ應用スレバ一層利益大ナリ。

第三 強チ疾病性質ヲ豫知シ置クノ必要ナシ。

第四 單ニ此ノ人ニハ何處ニ疾病アルカノ出問ニ對シテモ、各種基體ヲ全部使用スレバ決定スルコトヲ得。

但シ大凡何レノ邊ガ疑問ナリト指定セラルレバ基體使用上便利ナリ。

疾病局所尿診断

サテ前項ニ於テ余ハ疾病ノ所在診断ヲ説明セシガ、此ノ項ニ於テ、更ラニ一



歩ヲ進メ、疾病ノ巢窟ヲ一層嚴密ニ穿索シ得ルニ至ルコトヲ實說セントス。蓋シ身體ニ病變アリトスレバ、其ノ何レノ臟器ニ疾病ノ所在スルカヲ知ルハ、即チ所在診斷ノ要旨ナレドモ、乞フ想ヲ轉ジテ一臟器ヲバ假リニ一身體ナリト想到セヨ、吾人ハ取リモ直サズ其ノ臟器中ノ疾病所在ヲ物色セントスル企ハ必然起ルベキ題目ニシテ、是レ即チ局所診斷 *topische Diagnose* ノ出發點タリ。

然レドモ余ハ此ノ考ヲ以テ邁進セントスル前路ニ於テ、聊カ各種臟器ノ構成上ノ差ニ就テ注意スベキ一點ヲ述ベントス。

抑モ身體中ニハ各種異ナル諸種臟器アレドモ、其ノ臟器中ニハ同質平等ナルモノアリ、或ハ多質集團タルコトアリ、今若シ茲ニ一臟器アリテ、其レガ同質平等區域ト見做スベキモノナレバ、其ノ臟器中ニ起レル疾患ニ對シテ局所診斷ヲ行フコト克ハザレドモ、偶々臟器が多質集團ナル時ハ、吾人ハ其ノ異質ノ各局所ヲ追窮シテ、局所診斷ノ快舉ニ出ヅルコトヲ得ベシ。而シテ又實際上ニ於テモ平等臟器ニアリテハ、局所診斷ノ要ナク、多質臟器ニアリテハ頗ル局所診斷ノ必要ニ迫ラル、モノアリ。

余ハ今左ニ多質臟器中、最モ實用上ノ二箇臟器ニ就キテ之レヲ説明スベシ、即チ一ハ腎臟ニシテ、一ハ腦ナリ。

腎臟局所診斷

腎臟ノ局所診斷

腎臟ニハ皮質 *Rindenschicht* ト髓質 *Markschicht* トヲ區別スルコト、普ク吾人ノ知ル所ナリ、余ハ局所診斷法ニヨリテ、所謂腎臟疾患ニ際シテ、果シテ其ノ何レノ部分ガ侵サレタルヤ、換言スレバ皮質ノ疾患ナルヤ、髓質ノ疾患ナルヤヲ見定メントシ、之レニ成功セリ。

局所診斷ニ就テハ基體ヲ當該數ダケ要スルモノニシテ、余ハ此ノ目的ニ向ツテ、腎臟ノ皮質ト髓質トヨリ得タル余ガ兩種乾燥基體ニ就テ、提供セラレタル腎臟病者ノ尿ヲ検査ス。

之レニ就テ試験ニ必要ナル物品左ノ如シ。

診斷用品

- 一 腎皮基體, R-ネフリジン R-Nephrisin
- 一 腎髓基體, M-ネフリジン M-Nephrisin
- 一、血炭



一、パンブロール

一、診斷具

診斷方法

試驗ノ方法トシテハ余ガ凡テノ方法ニヨリテ出來レドモ、數多ク行フ場合故、此ノ時ハ濾過法ヲ選ブベシ、基體一回使用量ハ約〇・〇五瓦トス。

診斷例示

今左ニ二三ノ診斷例ヲ舉ゲン。

甲腎臟病患者尿ノ検査

一、腎皮基體

陽性

一、腎髓基體

陰性

是レニヨリテ提供セラレタル甲腎臟病尿ハ、余ガ腎皮基體ヲ分解スルコトヲ知ル、然レドモ余ガ腎髓基體ニ對シテハ更ニ作用セズ。此ノ事實ニヨリテ唯ダ腎臟病ト概言スルモ、其ノ用フル基體ノ發源部位ニヨリテ、或ハ陽性トナリ、或ハ陰性トナリ、以テ吾人ニ正確ナル或ル物ヲ教フルハ蓋シ造化ノ妙ト云フベシ。

依リテ余ハ尙ホ他ノ乙腎臟病患者尿ニヨリテ同様ノ試驗ヲ行ヘリ、即チ次ノ如シ。

乙腎臟病患者尿ノ検査

一、腎髓基體

陽性

一、腎皮基體

陰性

是レニヨリテ乙腎臟病尿ハ、余ガ腎髓基體ヲ分解スルコトヲ知ル、然レドモ余ガ腎皮基體ニ對シテハ更ニ作用セズ。以上兩者ノ尿ニ對スル結果ヲ綜合スレバ、或ル腎臟病ハ其ノ皮質ニ於テ病ミ、或ル腎臟病ハ其ノ髓質ニ於テ病ムコトヲ見ル、而シテ余ガ濾過法ハ實ニ其ノ病竈穿鑿者トシテ恰適ナルヲ信ズルモノナリ。余ハカ、ル試驗ニヨリテ悉ク腎臟疾患ノ局所診斷ニ成就セリ、今日ニ至ルマテ八十例ニ就テ試驗シ、甚ダ興味アル結果ニ到達セリ。而シテ斯ル局所診斷ハ學問上ヨリスレバ勿論、最後ニ摘出腎臟ニ就テ組織的ニ検査シ相照合スルカ、若クハ死後ノ剖檢ニヨリテ決スベキナレドモ、臨床上ヨリハ多クハ未ダ摘出ノ適應症ニ至ラザルヲ以テ、其ノ照合ノ機會多



カラザルヲ遺憾トナス。  
腎臟ノ局所診断ハ上述ヲ以テ其ノ一般ヲ傳フルヲ得タリ、然レドモ吾人ハ腎臟ニ比シテ尙複雑ナル多質臟器ニ對シ、局所診断ヲ要スル場合アリ、腦即チ是ナリ、以下引キ續イテ之レニ論及スベシ。

腦局所診断

腦ノ局所診断

サテ腦<sup>〇</sup> Him<sup>〇</sup>ハ之レヲ詳察スルニ、其ノ複雑セルコト他ノ臟器ニ其ノ比ヲ見ザル所ニシテ、多質集合團塊ノ本家本元ト云フベシ、從ツテ余<sup>〇</sup>ガ局所診断<sup>〇</sup>ノ妙味<sup>〇</sup>ハ實ニ腦ニ於テ躍如タルモノアリトス。

古來腦ノ局所診断ハ難中ノ難ニシテ、要スルニ各種生理的表徵ノ變調ヲ觀察シ、理論的ニ之レヲ歸納シテ、以テ診断ヲ企ツルノ外ニ策ナカリキ、而シテ此ノ如キ不安定ナル土臺ノ上ニ立チタル診断法ハ、決シテ安心ヲ與ヘズ、言ハバ當ルモ八卦當ラヌモ八卦的ニシテ、百例中偶々一發適中スレバ、敢テ之レヲ吹聽スルノ光榮ヲ有シテ愧ヂザルハ蓋シ一掬ノ泪ニ價ス。  
由來診断ハ人命ニ關スル極メテ重大事項ニシテ、苟モ吞氣ナル無責任的興味ヲ以テ之レニ臨ムハ、人道上深ク戒メザルベカラズ。

前述ノ腎臟局所診断ニヨリテ、余ハ單ニ腎臟病ノ有無ヲ診セルノミナラズ、其ノ腎臟ノ何ノ部分ニ病竈アルカ、換言スレバ腎皮質ニ疾患アルカ、若シクハ腎髓質ニ疾患アルカヲ診断シ得ルニ至リシガ、余ハ全ク同一理ニヨリテ腦ノ局所診断ヲ成就セリ。

診断用品

- 一、腦各部基體
- 一、血炭
- 一、パンブロール
- 一、診断具

診断方法

余ガ諸方法中此ノ際ハコトニ濾過法ヲ佳トス、蓋シ同一尿ニヨリテ數多ノ試験ヲ施スベキ必要アレバ、僅カ五瓦尿ヲ以テスル濾過法ヲ撰ブノ便ナルハ、敢テ説明ノ限リニ非ズ。

診断例示

今マ精神病患者ニ就キ、腦ノ局所診断ヲ應用シテ検査セル二三ノ結果ヲ示



スベシ。

但シ表中睪丸、卵巢及び甲状腺ニヨル結果ヲ共ニ示セルハ、間接ニ診斷上ノ興味ヲ存スレバ、局所診斷トハ無關係ナレトモ敢テ附記セル所以ナリ。

第一例 續發癡狂 水〇某 男性

- 一、大脳皮質 陽性
- 二、大脳髓質 陽性
- 三、大脳垂體 陰性
- 四、小脳皮質 陰性
- 五、小脳髓質 陰性
- 六、胼胝體 陰性
- 七、四疊體 陰性
- 八、連翹狀核 陰性
- 九、脈絡叢 陰性
- 一〇、ワロル橋 陰性
- 一一、延髓 陽性
- 一二、睪丸 陽性

一三、甲状腺 陰性  
即チ此ノ續發癡狂患者ノ尿ハ、大脳皮質、大脳髓質、延髓及び睪丸ヲ分解スルコトヲ知ル。

第二例 單一性妄想狂 大〇某 女性

- 一、大脳皮質 陰性
- 二、大脳髓質 陰性
- 三、大脳垂體 陰性
- 四、小脳皮質 陽性
- 五、小脳髓質 陽性
- 六、胼胝體 陽性
- 七、四疊體 陰性
- 八、連翹狀核 陰性
- 九、脈絡叢 陰性
- 一〇、ワロル橋 陽性
- 一一、延髓 陰性
- 一二、卵巢 陽性



一三、甲狀腺

陽性

即チ此ノ單一性妄想狂患者ノ尿ハ、小腦皮質、小腦髓質、ワロル橋、卵巢、甲狀腺ヲ分解スルヲ知ル。

第三例 急性單一性妄想狂 三〇某 男性

一、大腦皮質

陽性

二、大腦髓質

陽性

三、大腦垂體

陰性

四、小腦皮質

陽性

六、胼胝體

陽性

七、四疊體

陰性

八、連翹狀核

陰性

九、脈絡叢

陰性

一〇、ワロル橋

陰性

一一、延髓

陰性

一二、睪丸

陽性

一三、甲狀腺

陽性

即チ此ノ急性單一性妄想狂患者ノ尿ハ、大腦皮質、大腦髓質、小腦皮質、小腦髓質、胼胝體、睪丸、甲狀腺ヲ分解スルコトヲ見ル。

第四例 躁鬱狂 相〇某 女性

一、大腦皮質

陰性

二、大腦髓質

陰性

三、大腦垂體

陽性

四、小腦皮質

陽性

五、小腦髓質

陽性

六、胼胝體

陰性

七、四疊體

陰性

八、連翹狀核

陰性

九、脈絡叢

陽性

一〇、ワロル橋

陰性

一一、延髓

陰性

一二、卵巢

陽性

一三、甲狀腺

陽性



即チ此ノ躁鬱狂患者ノ尿ハ、大脳垂體、小腦皮質、小腦髓質、脈絡叢、卵巢、甲狀腺ヲ分解スルコトヲ知ル。

第五例 躁狂 遠〇某 女性

- 一、大脳皮質 陰性
- 二、大脳髓質 陰性
- 三、大脳垂體 陽性
- 四、小腦皮質 陽性
- 五、小腦髓質 陽性
- 六、胼胝體 陰性
- 七、四疊體 陰性
- 八、連珠狀核 陰性
- 九、脈絡叢 陽性
- 一〇、ワロル橋 陰性
- 一一、延髓 陰性
- 一二、卵巢 陽性

二三、甲狀腺

陽性

即チ余ガ躁狂患者ノ尿ハ、大脳垂體、小腦皮質、小腦髓質、脈絡叢、卵巢、甲狀腺ヲ分解スルコトヲ知ル。

以上ノ五實驗ハ其ノ例甚ダ尠キヲ以テ、其ノ結論ニハ遙カノ距離ヲ有スレドモ、余ハ唯余ガ尿診斷ノ應用ヲ精神病患者ニ施シテ、局所診斷甚ダ愉快ナル成績ヲ見タルヲ以テ、其ノ寸績ヲ報ズルノミナリ、唯茲ニ躁鬱狂及ビ躁狂患者ノ尿ガ脈絡叢ヲ分解シタル如キハ、余ノ甚ダ意外トスル所トス。

癡狂ガ大脳ヲ分解スルハ、既ニ透析法血清診斷ニ於テ吾人ガ實驗セシ所ナレドモ、余ガ例ニ於テハ尿ニ於テ之ヲ證シ、加之延髓ヲ分解セルガ如キハ蓋シ珍トスヘシ。

尙從來透析法血清診斷ニヨリテ、躁狂等ニ於テ單ニ大脳ニ於テ試驗セラレタレドモ、余ガ例ニ於テハ、小腦ヲ分解スルコトハ注意スヘキ現象ナリトス加フルニ大脳垂體ヲ分解スルコトモ亦興味アリトス。

余ハ少數ナガラ此レ等ノ二三發見ヲ基礎トシテ、自後益々研究ヲ重ネ、常在變化ト例外變化トヲ淘汰シ區別シテ、以テ所見ト診斷トノ一致ニ進マント



スルモノナリ、即チ余ハ結論ヲ他日ニ譲リ、茲ニハ余ガ偶然ノ機會ニヨリテ得タル一研究法、即チ腦ノ各部ノ變化ノ有無、即チ局所診斷 *topische Diagnose* ガ此クシテ成功ノ端緒ヲ開ケルヲ悦バントス。  
サテ此ノ如ク疾病ノ局所診斷ハ、腎臟及ビ腦ノ局所診斷例證ニヨリテ略々説明セリト信ズ、他ノ臟器ニ於ケル局所診斷ハ、自ラ類推應用スルコト容易ナルベシ、殊ニ彼ノ副腎 *Nebenniere* ニ於ケル局所診斷ハ、臨床上ニ於ケル副腎ノ意味ノ重大ナルダケ其レダケ興味ヲ深ウスルモノナリ。

### 尿ニヨル健康診断

健康診断ナル語ハヨク人口ニ膾炙スルトコロナリ、而シテ所謂圓頭長袖ノ御抱醫者ガ、大ニ手柄ヲ表ハスベキ機會トナス。  
由。來。健。康。診。斷。ト。ハ。自。覺。的。何。等。ノ。症。候。ナ。キ。ニ。當。リ。念。ノ。爲。メ。身。體。ノ。健。否。ヲ。他。覺。的。ニ。檢。査。ス。ル。コ。ト。是。レ。ナ。リ。故。ニ。健。康。診。斷。ヲ。行。ハ。ン。ト。ス。ル。醫。士。ハ。毫。モ。患。者。ヨリ。價。値。ア。ル。訴。ヘ。ヲ。聽。取。ス。ル。コ。ト。ヲ。得。ズ。唯。々。ト。シ。テ。之。レ。ヲ。診。察。ス。ベ。キ。

モノニシテ、要スルニ暗中摸索タルヲ免レズ、此ノ間ニ處シテ内臟ノ深部ニ疾病ヲ突キトムルコトハ、臨床上到底期待スベカラザル所ニシテ、一言以テ之ヲ蔽ヘバ從來ノ健康診断タルモノハ、其ノ大部分ニ於テ患者ノ氣休メニ過ギザルベシ。

然リ而シテ疾病ノ萌芽ハ、主トシテ此ノ健康状態ニ發シツ、アルモノニシテ、治療ノ方針ガ此ノ萌芽ノ絶滅ヲ理想トスルコト固ヨリ明カナル以上ハ、吾人ハ俗稱所謂健康ト名ヅクル狀況ノ下ニ於テ、確實ニ其ノ疾病有無ヲ檢出セザルベカラズ、換言スレバ健康診断ハ、即チ疾病有無ノ診断ニシテ、其ノ病種ニヨリ實ニ重大ナル意味ヲ有ス。

臟器變狀然リ、癌腫然リ、肉腫然リ、結核然リ、微毒然リ、窒扶斯然リ、殊ニ傳染病ニ於テハ所謂其ノ潜伏期ニ於テ、逸早ク之レヲ檢出スルコトハ最重要ナルコトニシテ、獨リ個人ノ幸ノミナラズ、防疫上極メテ肝要事ニ屬ス、況ンヤ彼ノ窒扶斯帶菌者 *Typhusfeiger* ニアリテハ、所謂健康ノ狀況ニ於テ窒扶斯菌ヲ保存スルヲヤ、人文ノ發達ト健康診断トガ、其ノ關係ヲ密ニスルコト想見スルニ餘リアリト云フベシ。



確實ナル意味ニ於ケル健康診断ハ、上來ノ理由ニヨリテ不言不問ニ疾病ヲ摘發スルダケノ威力ナカルベカラズ。此ノ時ニ當リテ絕對ノ權威者ハ即チ尿診断タリ。

診断用品

一、各種診断基體

一、血炭

一、パンブロール

一、診断具

診断方法

濾過法ヲ最便トシ、其ノ他適宜ニ余ガ凡テノ方法ヲ使用スルコトヲ得。

診断例示

結核健康診断ニ關スル例ヲ示スコト左ノ如シ。

無症候常人尿(甲)	ルエゼリン	陰性
無症候常人尿(乙)	ルエゼリン	陽性
無症候常人尿(丙)	ルエゼリン	陰性
無症候常人尿(甲)	テベサミン	陰性
無症候常人尿(乙)	テベサミン	陰性
無症候常人尿(丙)	テベサミン	陽性

即チ上記三例ノ検査中甲乙兩人ハ無結核ニシテ、此ノ點ニ於テ健康ナレドモ、丙ハ不健康ニシテ結核ヲ有ス、尙此ノ三者ニ就テ更ニ微毒健康診断ヲ行ヘルニ、

無症候常人尿(甲)      ルエゼリン      陰性

無症候常人尿(乙)      ルエゼリン      陽性

無症候常人尿(丙)      ルエゼリン      陰性

即チ前結核試験ニヨリテ健康ナリシ乙ハ微毒ヲ有シ、此ノ點ニ於テ健康者ナラザルヲ知ル。

是レニヨリテ此ノ兩基體ヲ使用シテ健康診断ヲ行ヘル場合ニハ、健康者ハ唯甲一人ノミナルヲ確ム。

診断注意

陰性管利用法

第一 陰性管利用法ヲ行ヘバ此ノ際非常ニ便利ナリ、即チ健康診断ニ一基體ヲ用ヒテ陰性ナリシ場合ニハ、其ノ試験管液ニ更ラニ他ノ基體ヲ加ヘ蒸留水ヲ加ヘテ、反應時間ニ至リ濾紙ヲ以テ濾過シ、直チニ煮沸檢色スベシ。



追ッテ此ノ如クスレバ、一本ノ濾液ヲ以テ多數ノ基體ヲ檢スルヲ得ベシ。但シ煮沸時内液ノ損失セザル様ニ其ノ都度注意スベシ。

第二 絶對ノ健康診斷ニハ、凡テノ基體ヲ以テ精密ニ檢診セザルベカラザレドモ、實際上ノ目的ニハ比較的注意スベキ疾病ノ二三ニ就テ檢査スルモ其ノ効果大ナリトス。

第三 室扶斯流行地等ニ於テ、常人モ亦凡テチホイチン反應ノ陰陽ヲ檢査シ、衛生ニ勉ムル必要アリ。

診斷注意ハ茲ニ攔筆シ、以下各種ノ意味ニ於ケル健康尿診斷ヲ舉ゲテ、其ノ實用ヲ明カニセントス。

家族衛生的

家族衛生的健康診斷

家族全體ノ健康診斷ハ毎月一回宛ハ之レヲ行フヲ可トス、家族ノ一人ニ肺結核ノ發生シタリトセンカ、延イテ家族ノ全滅ヲ將來スルコト世上頻ニ遭遇スル例タリ、的確簡便ナル尿診斷ガ如何ニ有利ナルカハ固ヨリ論ズルノ要ナシ。

學校衛生的

學校衛生的健康診斷

學校衛生ガ近代頗ル人ノ注意スル所トナリシハ喜ブベキ現象ナリ、而カモ生徒學生及教師ノ健康診斷ニシテ其ノ理想ニ達センカ、吾人ノ喜ビハ一層大ナルモノアラン。

尿診斷一度世上ニ生ル、ヤ、斯界ノ應用漸ク急ナラントス、思フニ曾テビルケー氏反應ヲ小學兒童ニ試ミ結核ヲ檢出セント焦リシ時代ニ比スレバ、眞ニ隔世ノ感アリト云フベシ。

結婚道德的

結婚道德的健康診斷

結婚ハ眞面目ナルヲ要ス、是レ其ノ子ヲ生ズルト同時ニ、先祖ノ血統ヲ傳フルニアレバナリ、故ニ今善カラヌ心掛ケノ娘アリテ、其ノ腹ニ他人ノ子ヲ宿シタルマ、急ギ結婚シタリトスレバ、不都合此ノ上モナカルベシ、サレド一方ニハ正シキ心根ノ婦人ニシテ、偶々早産シタル如キ場合ニ、他人ノ嫉妬ニヨリ持參兒ナリナドアタラ濡衣ヲ着セラレシ例モアリ、サレバ眞不貞何レニシテモ、婦人ハ結婚前ニ妊娠尿診斷ヲ要求スベクニンゼリンニヨリ健康診斷ヲ試ムルヲ以テ安全トナス。

尙ホ嫁婿トモニ其他一般健康状態ヲモ尿診斷的ニ檢査スベシ、殊ニ肺結核



等ノ健康診斷ハ必ズ之ヲ忽セニスベカラズ。

保險醫學的健康診斷

生命保險會社ガ保險ヲ付スル前ニハ、必ズ先ヅ精確ナル健康診斷ヲ試ミザルベカラズ、然ラズンバ非常ノ損耗ヲ蒙ルベシ、此ノ時ニ當リ尿診斷ハ實ニ理想的診斷法ナリト云フベシ。

防疫事業的健康診斷

防疫事業ハ公衆衛生ノ華ナリ、人文愈々開ケテ世界ノ交通益々頻繁ナラントスル時ニ當リ、大規模ノ衛生タル防疫的健康診斷ハ甚ダ其ノ必要ヲ見ル、而シテ之ヲ一都市一縣ニ徵スルモ、一郡一村ニ縮圖スルモ、偶々惡疫流行ヲ見ンカ、流行地ノ人々ハ總テ其ノ健康診斷ヲ要スベシ、斯クシテ之レヲ未聞ニ知り適當ノ處置ニ出ヅレバ、防疫上ニ貢獻スル事多大ナリト云フベシ、殊ニ窒扶斯及ビバラチフスノ如キハ、其ノ早期診斷ヲ要スル事甚ダシ。尿診斷ハ此ノ時ニ當リ完全ニ其ノ理想ヲ實現セシムルモノナリ。

治療適否ノ尿診斷

先生晨ニ病者ヲ診シテ、之レニ投ズルニ苦ガキ水藥ト酸キ散藥トヲ以テシ過グルコト一週日、病狀更ラニ快ナラズ、即チ心機一轉他ノ方劑ニ移ルコト一週日、病狀依然舊ノ如シ、是ニ於テカ再轉シテ更ラニ其ノ處方ヲ改メ、三轉シテ遂ニ元方ニ復歸ス、嗚呼醫療ノ變通モ亦忙ガハシキカナ。

思フニ變通ハ醫治ノ妙味ナランモ、無暗矢鱗ニ探藥ヲ用フルコトハ實ニ彼我ノ兩損タリ、況ンヤ再三轉々元方ニ歸スルニ於テハ、其ノ間定見ナキコト愧死ニ値スベシ。

斯カル弊害ハ、實ニ其メ治療ガ適當ナリシヤ否ヤヲ定ムル的確ナル羅針盤ノ無キニ因ス。

治療適否ノ尿診斷ハ、此ノ要求ヲ充スベク表ハレシモノニシテ、吾人ハ投藥治療中、逐日該病竈ヨリ出ヅル破壞酵素量ノ減退シ行クヤ否ヤヲ検査スル時ハ、甚ダ容易ニ現在與ヘツ、アル投藥ガ其ノ疾病ニ對シテ適當ナルヤ否



ヤヲ見當スルコトヲ得ベキナリ、而シテ若シ現在ノ投藥ニヨリテ、次第ニ當  
該破壞酵素ガ減量スルコトヲ認メナバ、假令ヒ自覺症狀ハサマデ快方ニ向  
ハザルニモセヨ、頑然トシテ醫師ハ其ノ同方劑ヲ連續シ、以テ効果ノ自覺的  
ニ表ハルコト、シテ俟ツベキノミ、然レドモ亦之ニ反シテ更ラニ酵素ノ減  
退ヲ見ザルニ於テハ、潔ク他法ヲ試ムルヲ以テ醫ノ上乘トナス。

診斷用品

一、現在疾病ノ診斷基體

一、血炭

一、パンブロール

一、診斷具

診斷方法

診斷方法トシテ余ガ總テノ方法中、殊ニ濃縮法及ビ定量的方法ヲ可トス、但  
シ定量的方法ニ際シテハ、上記用品ノ外ニ化學天秤ヲ要ス。

診斷例示

治療適否ノ尿診斷ニ就テ例示スルコト左ノ如シ。

從來疾病

結核(テベサミン陽性、單位七M)

持續治療

某結核内服藥

現在檢尿

結核(テベサミン陽性、單位七M)

右診斷 治療不適

此ノ如クニシテ吾人ハ大凡ソ目下ノ治療ガ適當ナルヤ無効ナルヤヲ察ス  
ルコトヲ得ベシ、但シ總テ藥品ニハ大凡ソ其ノ効力出現期限ヲ豫期シ得ベ  
キヲ以テ、其ノ時期ニ至ルマデ之レヲ連用シ、其ノ後一定時日ヲ經テ檢尿ス  
ベキモノトス。

檢尿レツテル

檢尿ハ三百瓦即約一合七勺ヲ瓶中ニ取り、之ニ左ノ諸件ヲ符記シタルレツ  
テルヲ貼付スベシ。

一、姓名及年齢

一、病名

一、某藥使用日數

一、採尿日附



## 手術成否ノ尿診断

悪性腫瘍ノ手術後ニ於テ吾人ガ最モ顧慮スル所ハ、再發 Recidiv ノ一點ニアリ、彼ノ癌腫ノ如キ、肉腫ノ如キ、又ハジinchチチームノ如キハ、吾人ガ最モ根治的 radical ニ手術セザルベカラザルモノニシテ、苟モ姑息的ノ施術ヲナシ置キテ能事了ハレリトナサバ、忽チニシテ再發シ以前ニ増シタル激烈増殖ヲ呈スベク、手術上寔ニ寒心スベキモノタリ。

兩虎相搏チテ其ノ血玄黃、而カモ其ノ勝敗ハ最後ノ五分間ニアリ、吾人ガ内臓ニ於ケル癌腫手術ノ如キ即チ是レナリ、今半仙米餘計ニ健部マデ切りタランニハ好カリシモノヲト氣付キシ時ニハ、腹部ハ既ニ閉サレ居ルニ非ズヤ、癌腫手術ノ成否ハ、實ニ腫瘍切除後ノ五分間ノ沈着ナル戰闘ニアリ、豈ニ思ハザルベケンヤ。

此ノ如ク手術ノ成効セルト否トハ、吾人實地家ノ最モ念頭ニ置ク所ニシテ從ツテ術後ノ成否ヲ早ク察知シテ、成功ナレバ大ニ安心スベク、若シ不成功

## 原理

ナレバ餘リ増殖セザル中ニ、逸早く第二回ノ手術ヲ斷行セザルベカラズ。是ニ於テカ實地醫學上吾人ハ手術成否ノ診断ヲ要望ス。

余ハ尿診断ニヨリテ幸ニ此ノ要求ヲ満足セシムルヲ得タリ、而シテ其ノ原理トスル所ハ、腫瘍ハ常ニ其ノ過強異化作用ニヨリテ破壊酵素ヲ發散セシムルコト、總論篇ニ詳説セシ所ニシテ、其ノ腫瘍完全摘出後ト雖モ、術後二十四日間ハ尙尿中ニ其ノ特殊的破壊酵素ヲ出現セシムルモノナリ、故ニ今若シ腫瘍ニシテ完全ニ除去セラレタリトセバ、手術後ヨリ次第ニ其ノ酵素量ヲ減少シ、逐次日ヲ趁フテ三週間ヨリ二十四日マデニハ、尙幾分カ尿中ニ出現スルコトアルモ、二十五日目ヨリハ最早ヤ完全ニ尿中ニ絶滅スルモノナリ、從ツテ完全手術後二十五日以後ノ尿ハ、決シテ當該腫瘍基體ヲ分解スルコトアラズ。

然レドモ若シ其ノ手術ニシテ不完全ナリセバ、破壊酵素ノ尿中出現ハ、荏苒持久シテ毫モ消退セズ、術後二十五日以後ノ尿ト雖モ、依然其ノ基體破壊力ヲ呈スベシ。

之レヲ要スルニ手術ノ成否ハ、術後二十五日目後ノ檢尿ニヨリテ決定スル



ヲ得ルモノナリ。

而シテ獨リ惡性腫瘍ノ手術ニ止マラズ、良性腫瘍ニ於テモ同斷ニシテ、加フルニ他ノ疾患例之ヘバ「カリエス」ノ如キニ於テモ、其ノ患部切除後骨質破壊酵素量ガ次第ニ減滅スルニ至ラバ、其ノ成功ヲト知スルニ足ルモノトス。

診斷用品

一、各種診斷基體

一、血炭

一、パンブロール

一、診斷具

診斷方法

余ガ方法ノ凡テニヨリ成就スレドモ、左ノ三方法即チ

濾過法

濃縮法

定量的方法

ヲ以テ實用的トナス、但シ定量的方法ニ際シテハ化學天秤ヲ要ス。

各種基體一回使用量ハ約〇・〇〇五瓦トナス。

診斷例示

今左ニ本診斷ヲ癌腫手術及ビ肉腫手術ニ就テ例示セン。

癌腫患者手術前

カンセリン

陽性

術後二十五日目

カンセリン

陰性

右診斷 手術成功

肉腫患者手術前

サルコミン

陽性

術後二十五日目

サルコミン

陽性

右診斷 手術不成功

診斷注意

第一「カリエス」等ノ手術成否ヲ「ツセリン」ニ由リテ診斷スル場合ニハ、其ノ患部ヨリ出ヅル酵素ハ手術後二十五日ニハ全ク消失スレドモ、更ニ手術ノ爲メニ設ケタル新創面ヨリ出ヅル破壊酵素アルヲ以テ、其ノ創面ノ大小ニヨリ其ノ治癒日時モ異ナルベク、從ツテ判然ト二十五日目ニ消失スルトハ限ラズ、幾分カ延長スルコトアリ、故ニ骨疾手術ノ成否ヲト知ス



ルニハ二十五日検尿ニヨリテ尙弱陽性タリトモ、直チニ手術不成功ト斷ズベカラズ、尙之レヲ三十日目及ビ四十日目ニ再檢シテ陰性トナラバ、即チ手術ハ成功ナリト知ルベシ。

第二 遺殘胎盤ノ摘出手術ニ當リテ、其ノ手術成否ハ術後二十五日目ノ尿ヲ以テニンゼリン反應陰性ナルヤ否ヤニ賴リテ決スベシ。

検尿「レツテル」

検査スベキ尿ハ三百瓦即約一合七勺ヲ瓶中ニ採取シ、之レニ左ノ件々ヲ符記シタル「レツテル」ヲ貼付スベシ。

一、姓名及年齢

一、病名

一、手術日附

一、採尿日附

診斷雜俎

余ハ子宮癌ノ全摘手術ヲ施シタル一婦人ニ對シ、定量的方法ニヨリ手術成否ヲ検査セリ、即チ手術後第一日ヨリ數量的尿中ノ破壞單位ヲ測定シ二十

五日ニ及ビタリ、其ノ結果下ノ如シ。

手術前	八、〇 M
手術後第一日	七、〇 M
手術後第二日	六、〇 M
手術後第三日	六、〇 M
手術後第四日	五、〇 M
手術後第五日	五、〇 M
手術後第六日	五、〇 M
手術後第七日	四、〇 M
手術後第八日	三、〇 M
手術後第九日	三、五 M
手術後第十日	三、〇 M
手術後第十一日	二、六 M
手術後第十二日	二、三 M
手術後第十三日	二、〇 M



手術後第十四日	一、五 M
手術後第十五日	一、〇 M
手術後第十六日	〇、七 M
手術後第十七日	
手術後第十八日	
手術後第十九日	
手術後第二十日	
手術後第二十一日	
手術後第二十二日	
手術後第二十三日	
手術後第二十四日	
手術後第二十五日	

即チ該患者ハ癰腫手術後、其ノ破壊酵素ハ既ニ手術後十七日目ヨリ、之ヲ尿中ニ定量的ニ證明セズ、而シテ定性的ニハ十四五日迄微弱陽性ヲ、パンプロールニヨリ檢色シ得タルニ過ギズ。

該患者ハ是レニヨリテ直チニ退院ヲ許可セリ、其ノ後今日ニ至ルモ再發ノ徴ナシ。

余ハ又貧血甚ダシキジンチチラム患者ヲ開腹手術シ、其ノ前後ノ尿ニ就テ破壊單位ヲ測定セルニ左ノ如シ。

手術前	九、〇 M
手術後第一日	八、〇 M
手術後第二日	五、〇 M
手術後第三日	三、五 M
手術後第四日	三、〇 M
手術後第五日	二、〇 M
手術後第六日	二、〇 M
手術後第七日	一、五 M
手術後第八日	一、〇 M
手術後第九日	〇、五 M



手術後第十日  
 手術後第十一日  
 手術後第十二日  
 手術後第十三日  
 手術後第十四日  
 手術後第十五日

即チ此ノ患者尿ニアリテハ、手術後十日ニ於テ既ニ破壊酵素ヲ定量的證明セザルニ至レリ、其ノ後該患者ハ全治退院シ、今日ニ至ルモ再發セズ。

尙ホ茲ニ一言附加スベキハ、右患者ト前記癌腫患者トノ尿ニ於テ、手術後酵素出現期間ヲ比較對照スルニ、癌腫ガ十六日間タリシニ拘ハラズ、此ノ際九日間タルハ餘リニ急速消失ノ感ヲ與フレドモ、是レ食鹽水注入ノ結果ナリ、余ハ此ノ患者ニ對シテハ、當時非常ナル貧血ノ結果、開腹手術後第一日ニ於テ脈搏細數安心ナリガタキヲ以テ、食鹽水皮下注入ヲ試ムルコト、第一日ノ午後ニ於テ千瓦ニ及ビタリ、故ニ翌日即チ第二日目ノ檢尿ハ、著シク食鹽水

食鹽水注入ト  
 破壊單位

ニヨル水分ヲ以テ稀釋セラレ、從ツテ出現スル破壊酵素ノ比較破壊單位數ハ急速ニ沈下シ、五Mニ減ゼル所以ナリ、又該患者ハ第二日目ノ午後ニ於テ更ニ食鹽水注腸ヲ施サレタル結果、第三日目ノ破壊單位モ三、五Mニ暴落セルハ興味殊ニ深シ。

### 疾病豫後ノ尿診斷

單ニ疾病ノ治療ガ醫師ノ任務ニ非ズシテ、吾人ハ實世間上重要ナル他ノ一任務ヲ有スルコトヲ忘ルベカラズ、疾病豫後ノ診斷即チ是レナリ。  
 人アリ病ス、海ノ物トモ山ノ物トモツカザル場合ニ當リテ、若シ到底望ミナキモノナラバ、一家ノ整理ヲ畫シ、一族ノ善後策ヲ講ゼザルベカラザルハ世渡リノ常ニアラズヤ、故ニ意識ノ未ダ人格ヲ失セザルノ程度ニ於テ、其ノ遺言ナリ、其ノ後圖ナリヲ傳フルハ、家族制度ノ上ヨリ之レヲ案ズルモ頗ル重要事タルヲ失ハズ、氣息奄々意識朦朧タル斷末間ニ於テ、強ヒテ筆トリ書カシメタル一片ノ遺言書ノ如キ、抑モ何等ノ權威ヲ値センヤ。



古來老醫ニ非ズシテ豫後ヲ斷ジ得ルモノ尠シト云フ、余ヲ以テ之レヲ見レバ蓋シ半面ノ眞理ヲ語ルモノト云フベシ。

抑モ薄弱ナル理論ノ上ニ立タル症候ヲ楯トシテノ診斷ノ如キハ、其ノ上乘ナルモノト雖モ、要スルニ七適三誤、若シクハ八正二誤タルヲ免ガレズ、從ツテ單ニ臨床上ノ症候ノミヲ以テ事ヲ決セントスルニ當リテハ、數限リナク是レ等ノモノヲ寄セ集メ、加フルニ不識ノ間ニ會得セシ暗示ヲカトシテ、所謂診斷ノ矢ヲ放ツノミ、而カモ其ノ必ズの中スルヤ否ヤハ明言スベカラズト雖モ、是レ等ノコトハ比較的何回モ死床ニ侍セシ老醫ナランニハ、曲リナリニモ大體ノ見當ヲ附クハ事若醫ヨリ巧ナルベシ、然レドモ又老醫ニシテ絶エテ患者ヲ得ル能ハザルモノハ、若醫ニシテ屢々「カンフル」ヲ手ニセシモノヨリモ見當ノ拙劣ナルヲキハ固ヨリ論ヲ俟タズ。

莫遮吾人學究者ハ、何レニシテモ決シテカハ、ル有難味アル九星の見當法ヲ以テ満足スルモノニ非ルナリ、満足セント欲スト雖モ、大ナル自然ハ決シテ之レヲ默諾セザルヲ如何セン。

余ハ尿診斷ヲ提ゲテ此ノ問題ヲ解決セント試ムルコト蓋シ久シク、幸ニ其

ノ目的ヲ達スルヲ得タリ、爾來疾病ノ豫後ニ就テ、其ノ生物學的根據ヨリ之レヲ打算シ得ルニ至リシハ、余ガ研究心ノ一部ヲ慰藉スル所以ナリ。

サテ其ノ原理トスル所ハ下ノ二件ニアリ、其ノ一ハ體内自家融解ニ陥リツ、ハアル臟器ノ種類ガ次第ニ増加スルヤノ決定ニシテ、其ノ二ハ即チ主要ナル臟器ガ自家融解ヲ始メタルヤノ決定是レナリ。

以上ノ二理由中前者即チ多數臟器 *viele Organe* ガ日ヲ追フテ融解スルニ於テハ、其ノ豫後ヲトスルコト容易ナリトス、然レドモ又後者即チ生活重要臟器 *Lebenswichtige Organe* ノ融解盛ナル場合ニアリテハ、假令其ノ種類ハ單一箇ナリト雖ドモ、豫後ヲトスルコト難カラズ、之ヲ要スルニ疾病ノ所在上ヨリ豫後ヲ決定シ得ベシ。

此ノ他疾患ノ性質上ヨリ觀察シテ、現代ノ治療法ニ於テ未成功ニ屬スル疾病、例之ヘバ惡性腫瘍ノ如キ、廢疾の細菌病ノ如キ、又タ惡性寄生蟲病ノ如キモノニ對シテハ、成書往々豫後不良ノ言ヲ冠スレドモ、余ハ未ダ彼等ニ向ツテ豫後不良ヲ速斷セントセズ、蓋シ是レ治療法ノ未ダ發見セラレザルガ爲メニシテ、其ノ罪ハ治療界ノ責任ニ歸スベク、一朝其ノ方法ダニ見出サレン



カ甚ダ容易ニ之レヲ治療シ得ベキ性質ノモノニシテ、苟モ生物學的見地ヨリシテ、是レ等ニ對シ豫後不良ノ字ヲ冠スルハ絶對ニ杜撰ニシテ何等ノ根據ヲ示サズ、況ンヤ其ノ性質ノ如何ヲ問ハズ、其ノ豫後ハ必ズヤ、其ノ犯セル臓器ニヨリテトセザルベカラザルヲヤ、故ニ余ハ從來ノ所謂不治疾患タルモノヲ、豫後判定ノ區域ヨリ敢テ削除スル所以ナリ。

診斷用品

- 一、各種臓器診斷基體
- 一、血炭
- 一、パンブロール
- 一、診斷具

診斷方法

疾病豫後ノ尿診斷方法トシテハ、凡テノ余ガ方法ニテ成就ス。但シ左ノ方法ヲ以テ最モ實用的トナス。

濾過法

是レ蓋シ豫後診斷ニ當リテハ、常ニ多數ノ臓器ヲ數回ニ亘リテ検査スルヲ

間隔検査

要スルモノニシテ、從ツテ其ノ手數ノ最モ簡單ナル濾過法ハ、此ノ際至極適法タリトス、而シテ一定時日ノ間隔ヲ以テ、數回ニ亘リ検査スルコトヲ間隔検査ト稱ス。

各種診斷基體ハ凡テ一回使用量約〇・〇五瓦トス。

診斷例示

左ニ豫後診斷ニ關スル例示ヲ掲ゲン。

- |         |      |    |
|---------|------|----|
| 患者第一回検査 | 三種臓器 | 陽性 |
| 患者第二回検査 | 五種臓器 | 陽性 |
| 患者第三回検査 | 十種臓器 | 陽性 |

右診斷豫後不良

此ノ如ク一定ノ間隔ヲ以テ、數回ノ尿診斷ヲ各種臓器ニ就テ行ヒ、即チ間隔検査ノ結果、次第ニ疾患臓器ヲ増加スルニ於テハ豫後不良ニシテ、死ノ手ガ刻一刻ニ近ヨリツ、アルコトヲ察知スベシ。

而シテ其ノ臓器ガ直接生活ニ必要ナル臓器ナレバ、從テ益々死ヲ急ナラシム、而シテ假令其ノ數ガ多數ナラザルニモ拘ハラズ、死ニ至ルコトアリ。



診斷注意

豫後診斷ニ際シ注意スベキ事項左ノ如シ。  
第一 對照管利用法ヲ行ヘバ非常ニ便利ナリ。

蓋シ豫後診斷ニハ多數ノ試験管ヲ要スルヲ以テ、一々濾液ヲ製作スルハ經濟上時間上勞力上容易ナラザルコトナリ、故ニ吾人ハ此ノ際パンブロー  
ル豫檢ニ用ヒタル對照管ヲモ同時ニ利用スレバ、全ク利益ヲ倍得スベシ。  
第二 豫後診斷ニハ少ナクトモ三回以上ノ間隔檢尿ヲ行フベシ。

診斷雜俎

余ハ診斷不明ナル六十餘歳ノ一患者ニ對シテ、暗中物色のニ尿診斷ヲ乞ハレタルヲ以テ、多數基體ヲ以テ先ヅ其ノ疾病ノ所在診斷ヲ行ヘルニ、其ノ結果左ノ如クナリキ。

- 肝臟病
- 腎臟病
- 肺病
- 心臟病

結核

次デ第二回送尿ヲ得タルヲ以テ再ビ之レヲ檢セルニ、豈圖ランヤ疾病箇所著シク増加シテ、

- 肝臟
- 腎臟
- 肺臟
- 心臟
- 胃
- 肋腹膜
- 腦
- 脊髓
- 結核

即チ第二回目ノ送尿ニヨル疾病箇所ハ九箇臟器ニ及ビ、前回ニ比シテ著シキ増激ヲ示セリ、但シ結核反應ハ兩場合トモ著明ナリキ。  
是ニ於テ余ハ手紙ヲ以テ其ノ病狀重篤ナルヲ注意セシガ、超エテ三日目ニ



シテ該患者ハ永眠セルコトノ報知ニ接セリ。  
 余ハ尙他ノ一例トシテ斷末間 Agonalstadium ニアル患者ノ尿ヲ檢シ、次ノ如キ興味アル確證ヲ得タリ、即チ慢性病ニヨリテ次第ニ衰弱シ、人事不省ニ陥レル瀕死者ノ尿ヲ「カタール」ニテ採取スベキ機會アリシヲ以テ、是ニヨリ次ノ検査ヲ行ヒタリ、但シ患者ハ既ニ膀胱麻痺ニ陥リ、或ハ失禁シ或ハ停滯ノ狀況ニアリ、余ハ先ヅ斯カル慢性的ニ衰弱死ヲ遂グル病者ニアリテハ、必ズヤ殆ンド凡テノ臟器ガ病的狀況ニ陥ルベキヲ想像シ、果シテ然ラバ該患者ノ尿中ニハ、余ガ各種臟器診斷基體ヲ分解スベキ破壞酵素ノ出現スベキコト勿論ナルヲ以テ、直チニ濾過法ニヨリテ之レヲ検査セリ、其ノ結果左ノ如シ。

- ブルゼリン 陽性
- ヘバゼリン 陽性
- パンクレシン 陽性
- ガストミン 陽性
- エンテリン 陽性

ネフリジン 陽性  
 ドルチン 陽性  
 クラニン 陽性  
 ヲッセリン 陽性

即チ該瀕死者ノ尿ハ、肺、肝、脾、胃、腸、脊髓、腦、骨及腎ヲ分解スルコトヲ知ル。之レヲ換言スレバ、疾病ニヨル瀕死者ノ尿中ニハ、殆ド凡テノ臟器ヲ破壞スベキ多種ノ破壞酵素ヲ出現セシムルモノニシテ、切言スレバ瀕死者ニアリテハ、廣汎ナル體內自家融解ヲ證明スベク、即チ各種臟器ハ凡テ自ラ融解シ去ルヲ示スモノナリ。

今夫レ瀕死 Moribundus トハ將ニ死セントスルヲ云ヒ、瀕死者ノ一步ヲ進メタルモノ之ヲ死 Mortis ト稱ス、死者ハ即チ全臟器ノ自家融解ヲ致シ、死後ノ破壞酵素ハ次第ニ屍體ヲ去リ、悠々トシテ宇宙ニ活步セン、死者即チ酵素ニ於テ活ク、嗚呼死者遂ニ死セズ、死者遂ニ死セザルナリ。



## 尿診斷(完結)

## 卷末の辭

吾れ文辭に麗ならず、吾れ禮節に嫻はず、慥として野人に比す、敢て濃花に韻するの才なく、敢て月明を誦ずるの質なし、春よ行け、秋よ去れ、孤影獨り率ゐて滿天の雪に紅蓮と燃えん。

生の藻搔きは人を忙殺して眞理を味ふに違あらしめず、迅雷風烈、耳爲めに聾して永劫の鐘を聽かず、目は倏ち眩して樂園の巷を失ふ、あらぬ影象を趁ふて眞理の鐵路を脱したる車よ、汝が車輪は徒らに轟々たり、汝が車體は寸前も敢てせず、十年去り、百年更に去り、千歳空しく轉じ、二千歳將に空しく消えんとす。

此の瀬戸際を以て、造化は嗤ふて余に投ずるに一の鍵を以



てし、徐ろに神秘の内殿に迫らしむ、尿哲學は寔にそが第一  
廓の公開たり。

言ふ勿れ蒼海の一粟、悲むを已めよ萬馬の一鬣、神鍵の擬す  
るところ卷舒自在たり、以て長江を極むべく、以て萬物の鬱  
を覈ふに庶幾し、熱骨三十五年、衝颺湍波事多かりし當年の  
筐底を探りて、偶々隈川教授が手書に *mit grosser Bedeutung* の  
一語を見出しぬ、噫、識者は唯之を識る、取る箸の日に重り行  
きし岩井禎三氏は、余に囑するに飽まで眞理の擁護と理想  
の實現とを以てせり。

片籍今や成るに及んで感慨特に深し。

吁、永劫の鐘は此の小冊より響かん、樂園の巷は此の小冊に  
導かれん、北天の劍峰駒ヶ岳、白鐵を灼て窓前に高し、吾れ亦  
悠悠塵世に枕して、更に二千年後の風雪を叱咤せむ。

謹みて本書を

亡父木内貞順の靈前に捧げ

今後の御苛察を乞ひたてまつる



大正五年十月十四日印刷  
大正五年十月十七日發行

正價金六圓

不許複製

不許翻譯  
不許歐文

北海道函館區船見町百〇四番地

著作兼發行者 木 內 幹

東京市京橋區築地二丁目二十一番地

印刷者 渡 邊 素 一

東京市京橋區築地二丁目二十一番地

印刷所 國光印刷株式會社

發賣所

東京市芝區新堀  
河岸第三十七號

東京醫事新誌局

電話芝四六二番  
接替口座東京一七九六八番



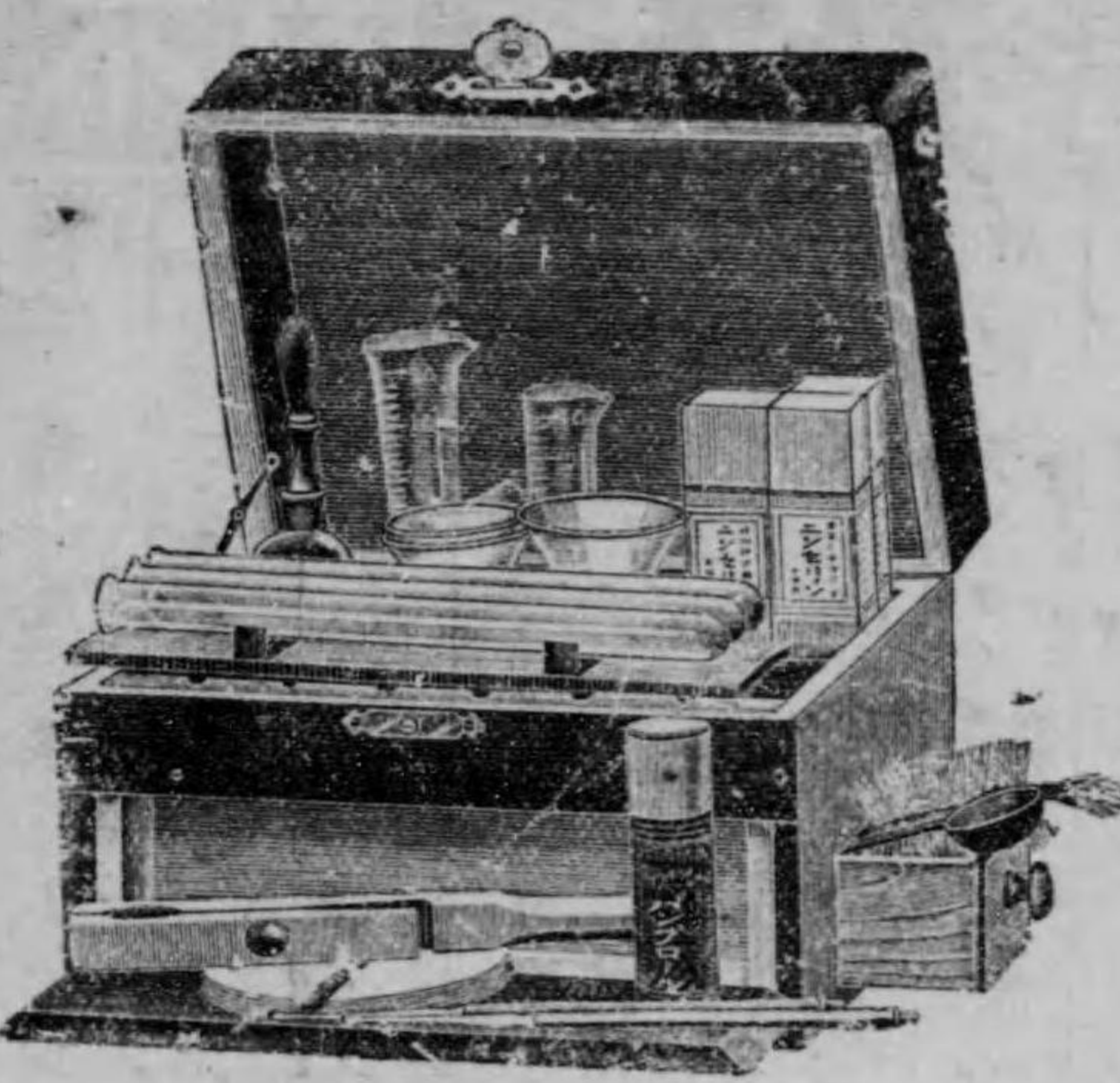




# 實益と趣味を極めたる尿診断の進歩

世界を驚倒せしめたる尿診断の發見者醫學博士木内幹氏は檢尿により妊娠診断を發表し、次で胎兒男女診断肺病診断、骨疾診断、脊髓診斷等に著々成功し醫界を震撼せしが、氏の深刻不撓なる研究は益々進歩し、近きは癌腫診断、肉腫診断、肝臟病診斷等總て尿診斷により多數實驗上一回の誤診なきを發表せらる。弊店爰に木内博士に乞ひ博士が創案使用しつゝある尿診斷具を一括し診斷基體藥品一切を發賣し洽く斯界に提供するの光榮を得たり。

元來此の破天荒なる偉業は疾風迅雷の勢を以て忽ち五大州を歴せしが、博士更に突進して絶對的時間の短縮に成功し一瞬間にして各種診斷を實現するに至れり。弊舖即ち博士に請ふて從來の尿診斷上に追補するに新法に必要なる諸品を以てせり。依りて爰に急遽大方に向て謹告仕候。乞ふ大方の國士並に獸醫畜産家諸賢御愛用の榮を賜はらん事を。頓首



(面圖具斷診)

- 醫學博士木内幹氏の尿診斷具**  
**木内博士の使用法説明書附**  
**正價 金六圓也** (内地送料金四拾錢也) (清鮮臺榊金八拾錢也)
- 内容品内譯**
- 木内氏バンブロール瓶(ビヘッ) 壹個 大メート(二十瓦) 壹個
  - 木内氏試驗管 六個 小メート(十瓦) 壹個
  - 木内氏試驗管挾 壹個 血炭漏斗 四個
  - 木内氏血炭匙 壹個 基體漏斗 四個
  - 木内氏基體匙 貳個 濾過機(大小) 貳個
  - 木内氏大ビーカー(一〇〇瓦) 壹個 試驗管洗刷毛 壹個

木内氏中ビーカー(五〇瓦) 壹個  
 木内氏小ビーカー(二〇瓦) 壹個

## 木内博士診斷用基體藥品正價

人畜妊娠診斷藥	ニセリン	〇・二五入	金五十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	セキシン	〇・二五入	金七十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	ハラセキシン	〇・二五入	金七十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	ミチセリン	〇・二五入	金七十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	アルセリン	〇・二五入	金七十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	ナツセリン	〇・二五入	金六十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	ドルザン	〇・二五入	金五十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	カドセリン	〇・二五入	金五十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	ヘパセリン	〇・二五入	金五十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	Aパラチホイザン	〇・二五入	金八十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	Bパラチホイザン	〇・二五入	金八十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	ザルコミン	〇・二五入	金七十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	パンクレシン	〇・二五入	金七十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	チホイザン	〇・二五入	金八十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	カストミン	〇・二五入	金六十五錢
人畜胎兒男女診斷藥	パンプロール	〇・二五入	金壹圓貳拾錢
人畜胎兒男女診斷藥	ルイセリン	〇・二五入	金壹圓五十錢
人畜胎兒男女診斷藥	炭末	一〇〇瓦入	金壹圓八十錢

東京市日本橋區本町三丁目拾壹番地

いわしや 醫科器械店 **木内伊之助**

電話本局二五八二  
 振替東京三七五五



2-3760

# CARBO SANGUINIS

(Blut kohle)



## 濾過用 精製 血炭末

血炭は從來本邦に於て製造せられず總て外國製品を使用しつゝありしが歐洲戰亂突發と共に輸入杜絶し遂に其**絶品**を叫ぶに至れり然れども**勿憂**本製薬部製出の**血炭末**は**木内博士の證明**を得且つ小樽衛生展覽會に於て**金牌**を受領し今や内國は勿論遠く**海外**よりの注文を充しつゝあり

世界的大發明なる木内博士尿診斷に於ける濾過用として缺くべからざる逸品なり

百グラム入 半磅入 壹磅入 各種

北海道函館區鶴岡町三十一番地  
藥劑師草刈元次方

### 函館藥劑師會附屬製薬部



~~52~~ 492.14  
~~40~~ KI81



終